



エヒメアヤメ

## 第3章 環境基礎調査

### 【第3章の内容】

この章では、アンケート調査、ヒアリング調査結果から、市民、事業者の意見、意識をまとめています。

また、地域別の環境特性を示すとともに、みはらし環境塾の結果から15のプロジェクトを提言しています。

第1節 市民・事業者の意識

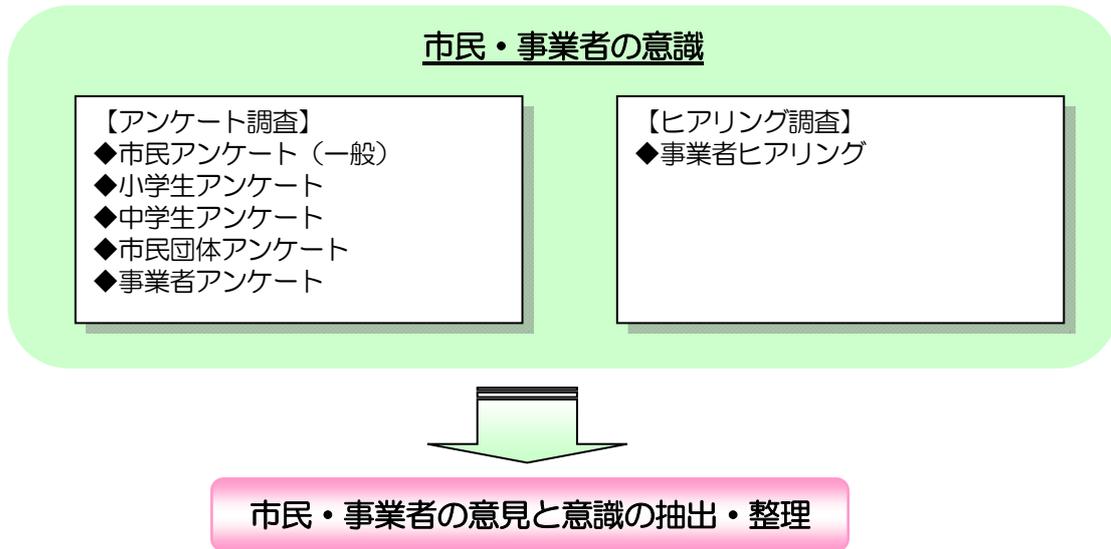
第2節 地域別環境の現状

第3節 みはらし環境塾

# 第3章 環境基礎調査

## 第1節 市民・事業者の意識

本市の市民、事業者の環境意識については、アンケート調査、ヒアリング調査の基礎調査により、市民、事業者の意見と意識を抽出し、整理します。



### 1 アンケート調査

#### (1) 調査概要

市民、小学生、中学生、市民団体、事業者に対して、身近な環境問題や将来のあり方などの意識、意向を把握し、将来の望ましい環境像や環境目標等の基礎資料とするために行いました。

調査対象数や抽出方法などは次のとおりです。

区分	調査対象数	抽出方法	回収率	調査期間
市民	1,142人 (20歳以上及び17歳)	住民基本台帳から5地域別に人口按分で無作為に抽出	39.6%	平成18(2006)年 10月2日(月) ～10月20日(金)
小学生	259人 (小学5, 6年生)	三原市内の公立小学校を対象 計30校中10校	97.7%	
中学生	354人 (中学2年生)	三原市内の公立中学校を対象 計11校中4校	92.9%	
市民団体	48団体	三原市内の環境保全の活動実績がある団体を対象	63.8%	
事業者	150事業所	事業所規模が100人以上の場合は全数対象とし、残りは、産業中分類別に事業所数按分で無作為に抽出	60.8%	

(注)小・中学生アンケートは、教育委員会を通じて、配布、持参回収したため、回収率は高い。  
回収率 = 有効調査票数 / 有効発送数  
有効調査票数 = 回収調査票数 - 無効調査票数  
有効発送数 = 発送数 - 宛先不明数

## (2) アンケート内容

アンケート内容は、市民、市民団体、事業者の周辺環境の状況や将来の環境問題に対する考え方を把握できる内容を盛り込み、これらの意見を望ましい環境像や環境目標へ反映するようにしました。

### アンケート調査内容

#### 【市民アンケート】

- ◆属性（男女別、年齢、住居地区など）
- ◆居住地周辺環境について
- ◆望ましい環境像
- ◆環境問題に関する考え方
- ◆地球規模での環境問題に関する考え方
- ◆環境問題の情報源
- ◆今後の市民、市民団体、事業者、行政（三原市）のあり方
- ◆ごみのポイ捨てや歩きタバコ等の迷惑行為について

#### 【小・中学生アンケート】

- ◆属性（男女別、学年）
- ◆居住地周辺環境について
- ◆環境問題に関する考え方
- ◆望ましい環境像
- ◆環境に対する取組
- ◆環境問題の関心の高さ

#### 【共通質問項目】

- ◆居住地または事業所周辺環境について
- ◆望ましい環境像
- ◆関心のある環境問題
- ◆日常生活における環境保全の取組
- ◆今後の事業者のあり方
- ◆今後の行政（三原市）のあり方

#### 【市民団体アンケート】

- ◆属性（団体名、会員数、主な活動内容等）
- ◆活動内容や目的
- ◆望ましい環境像
- ◆今後の協力体制

#### 【事業者アンケート】

- ◆属性（従業者数、業種、事業所の所在地等）
- ◆事業所周辺の環境について
- ◆環境問題に関する考え方
- ◆現在の環境保全活動について
- ◆今後の環境保全活動について
- ◆市民から求められている環境配慮
- ◆今後の行政（三原市）のあり方



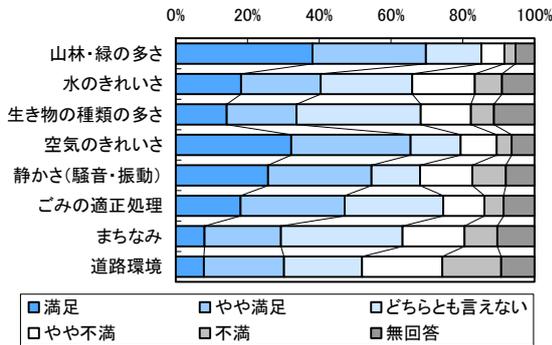
(3) 調査結果

市民・事業者は、三原の環境に対してどのように感じているか

市民

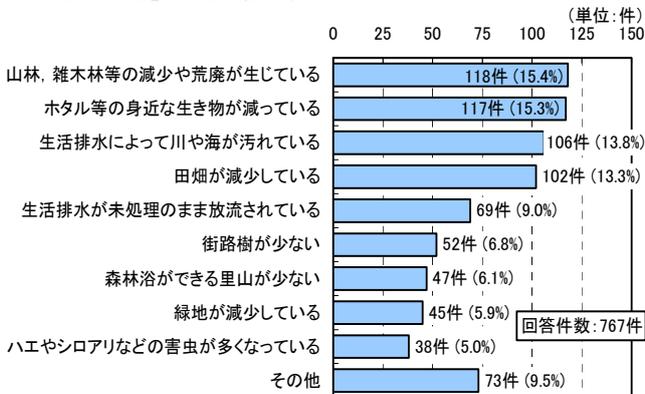
◆環境に対する満足度

「山林・緑の多さ」、「空気のきれいさ」に対しては「満足・やや満足」と感じている人の割合が多い。



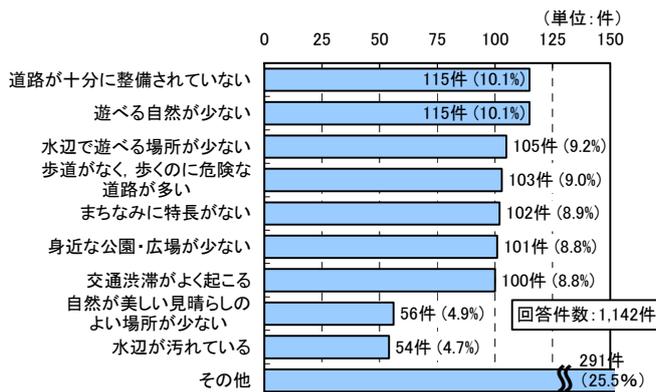
◆環境の問題点(自然環境)

「山林・雑木林の減少や荒廃」、「ホタル等の身近な生き物が減っている」などが多い。



◆環境の問題点(快適環境)

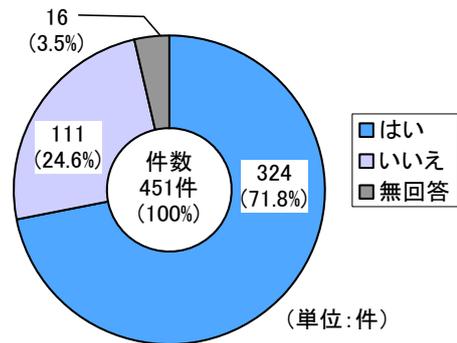
「道路整備」、「遊べる自然が少ない」などが多い。



(注) 端数処理のため合計値が合わない場合がある。

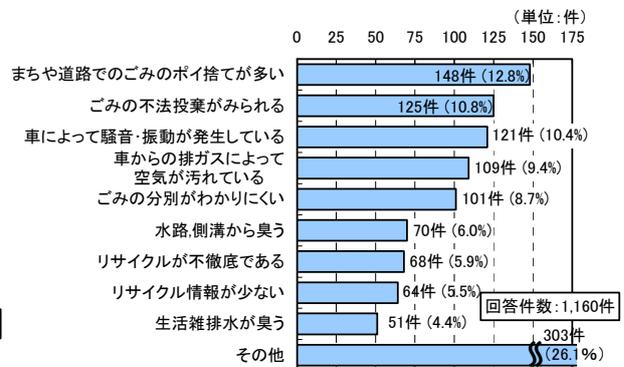
◆住居地周辺の問題点の有無

市民の7割以上は、周辺環境に問題があると感じている。



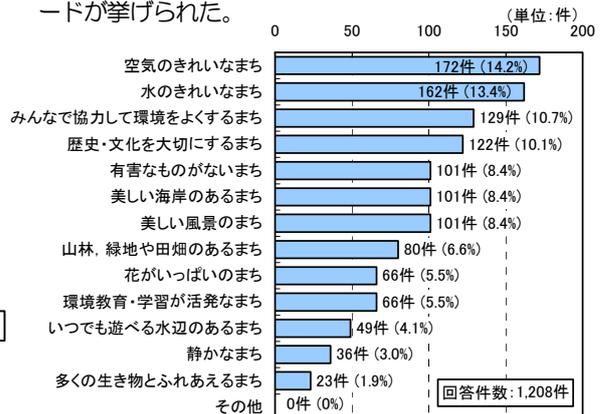
◆環境の問題点(生活環境)

「ポイ捨て」、「ごみの不法投棄」など、ごみに関することが多い。



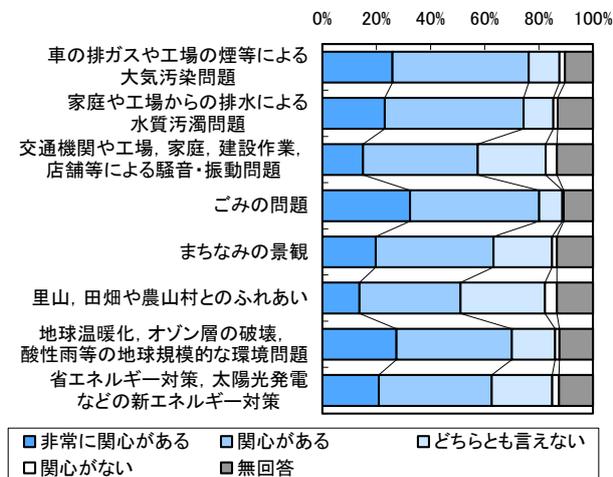
◆望ましい環境像

「空気」、「水」、「協力」、「歴史・文化」などのキーワードが挙げられた。



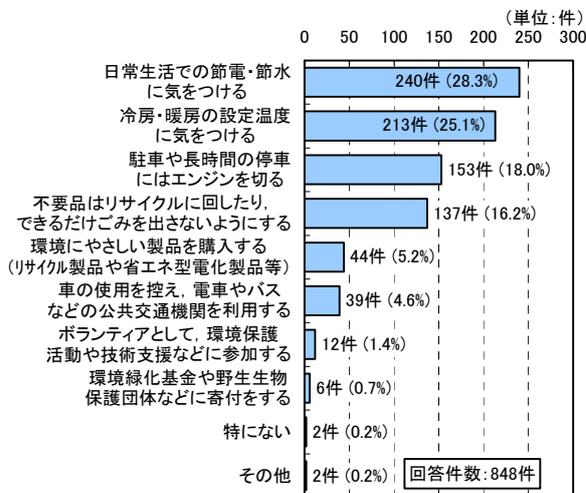
### ◆環境問題に対する関心度

「ごみの問題」、「大気汚染問題」、「水質汚濁問題」などの関心が高い。



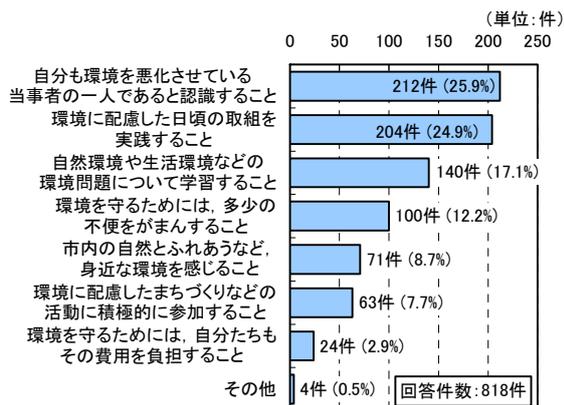
### ◆地球環境保全のために貢献できること

「節電や節水」、「冷暖房調節」など身近にできることが多い。



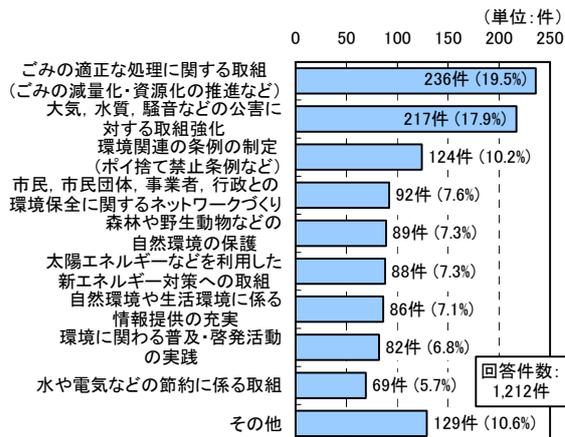
### ◆市民自身が重要と思うこと

「自分も環境を悪化させている当事者の一人であると認識すること」が最も多い。



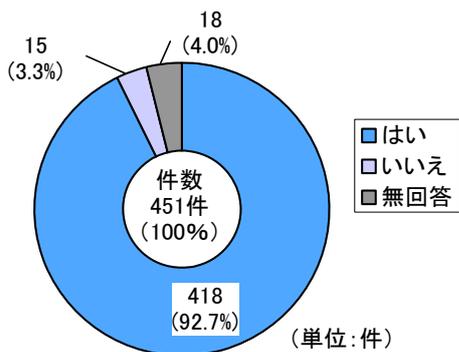
### ◆三原市に期待すること

「ごみの適正処理」、「公害に対する活動強化」などが多い。



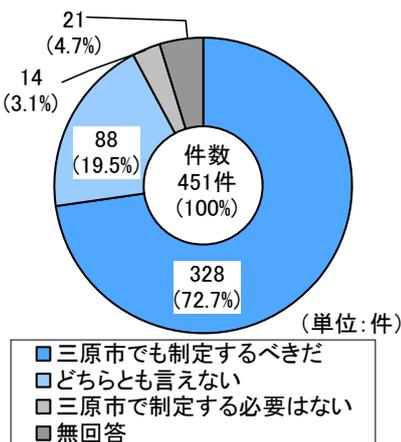
### ◆ポイ捨てや歩きタバコ等の迷惑行為

迷惑行為は、回答者の9割以上が気になっている。



### ◆条例制定の必要性

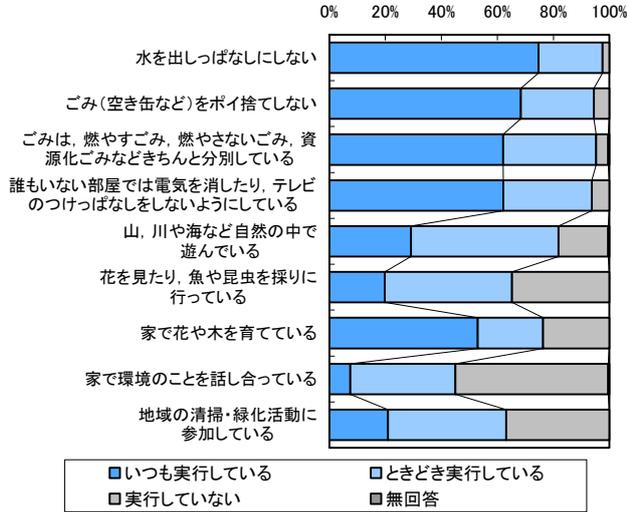
ごみのポイ捨て防止条例や歩きタバコ禁止条例等は7割以上が制定すべきと考えている。



## 小学生

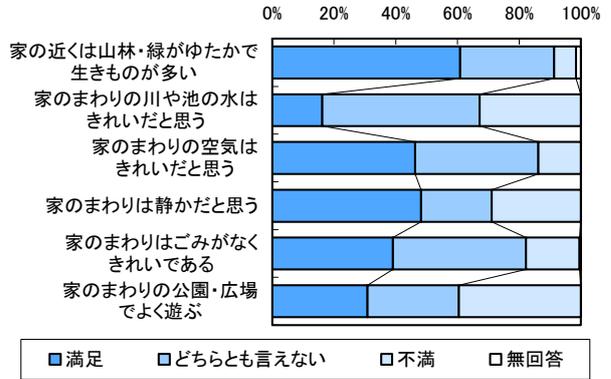
### ◆環境に対する取組

現在実行している取組は「水を出しっぱなしにしない」が最も多い。



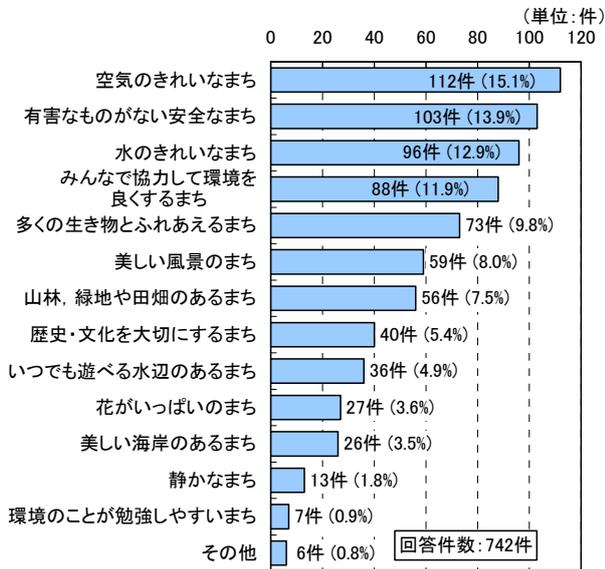
### ◆環境に対する満足度

自然に対する満足度は高い。水のきれいさについては「どちらとも言えない」が多い。



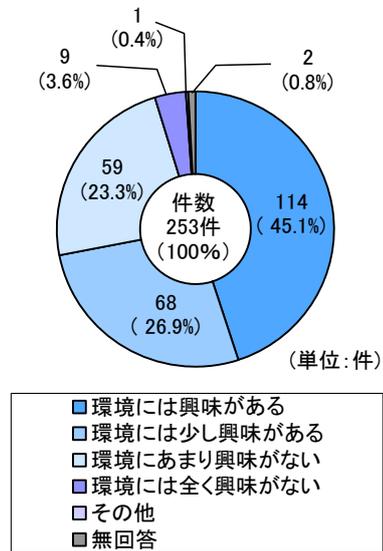
### ◆望ましい環境像

「空気」、「有害」、「水」、「協力」などのキーワードが挙げられた。



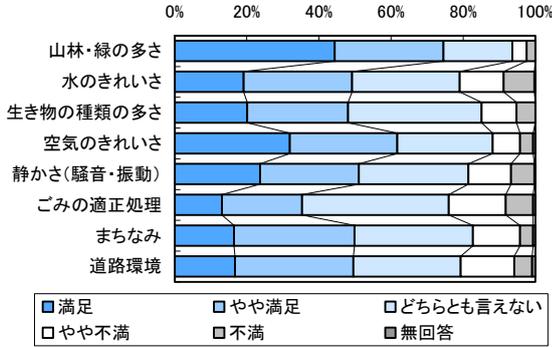
### ◆環境への関心度

小学生の約7割は、環境に興味を持っている。



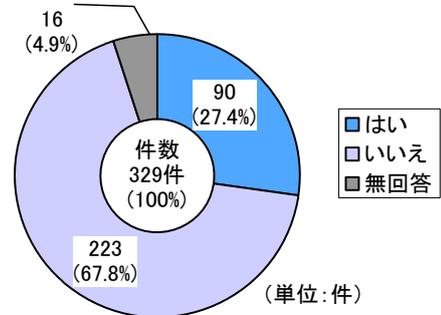
◆環境に対する満足度

「山林・緑の多さ」、「空気のきれいさ」に対しては満足・やや満足と感じている人の割合が多い。



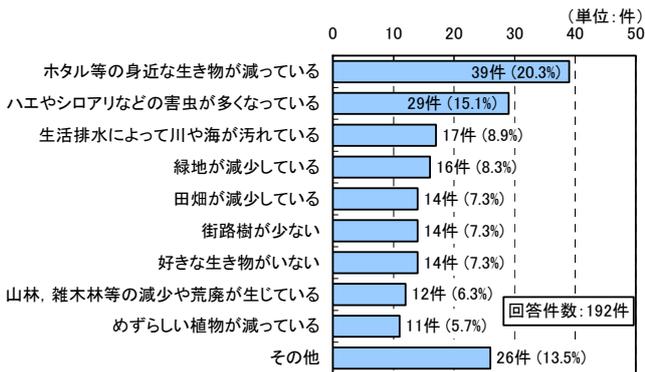
◆住居地周辺の問題点の有無

中学生の約7割は、周辺環境に問題がないと感じている。



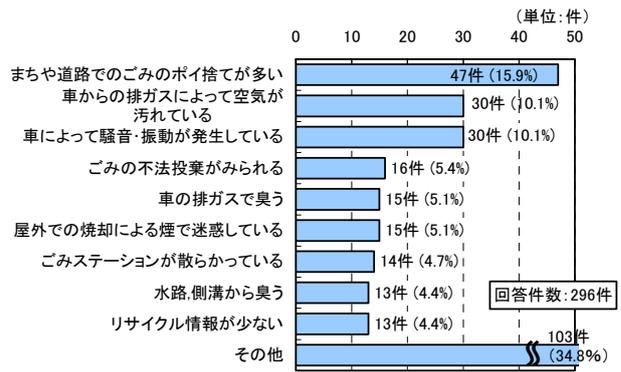
◆環境の問題点(自然環境)

「ホテル等の生き物が減っている」、「ハエやシロアリなどの害虫が多くなっている」が多い。



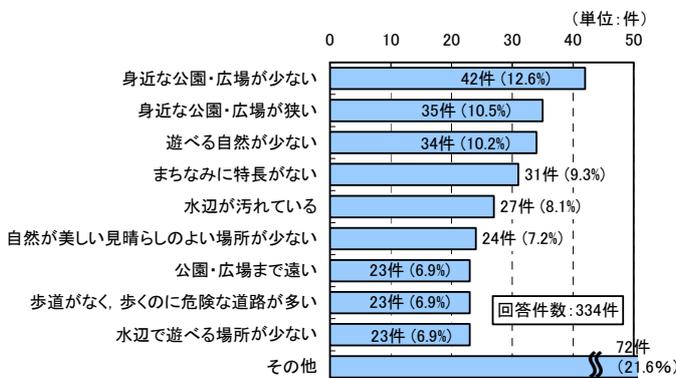
◆環境の問題点(生活環境)

「ポイ捨て」、「空気の汚れ」、「騒音・振動」が多い。



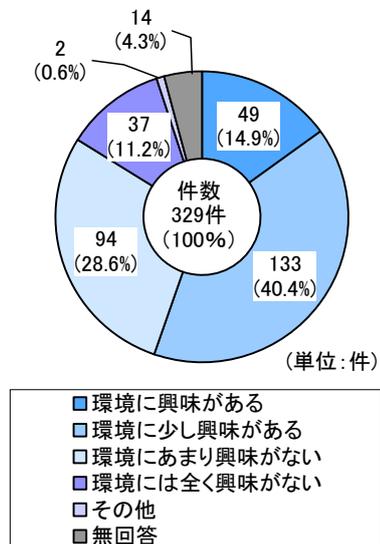
◆環境の問題点(快適環境)

「公園・広場が少ない」など遊べる場所に関することが多い。



◆環境への関心度

中学生の半数以上は、環境に興味を持っている。



## 市民団体

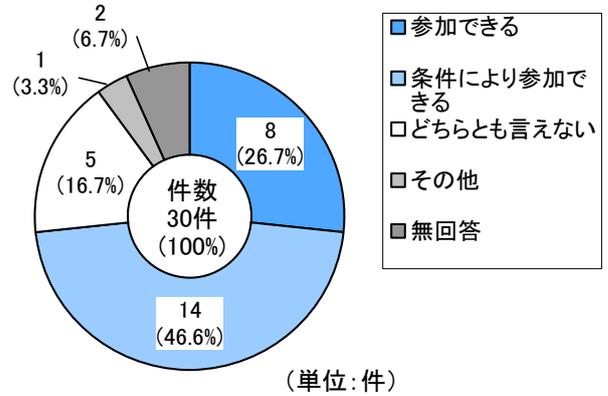
### ◆三原市の望ましい環境像

望ましい環境像として、以下の項目が挙げられた。

- ◆海、空、山のバランスのとれた快適な生活環境の整備と創造が望ましい
- ◆近隣の里山へ遊歩道を整備し、里山保全にも力を入れてほしい
- ◆リサイクル問題に対して、モデル地区となること
- ◆都市部からのボランティア等による行動や川等の草刈りや花木等の植栽等環境美化をお願いしたい
- ◆地産池消、循環型社会の推進が望ましい
- ◆道路端や町中に、ごみが落ちていない美しいまちが望ましい
- ◆清潔感のあふれた市にして欲しい
- ◆三原市民一人ひとりが環境に対する意識の向上が必要である など

### ◆今後の協力体制

市民団体の約7割は、「参加できる」または「条件により参加できる」と回答している。



### ◆参加できる内容

参加できる内容として、次の項目が挙げられた。

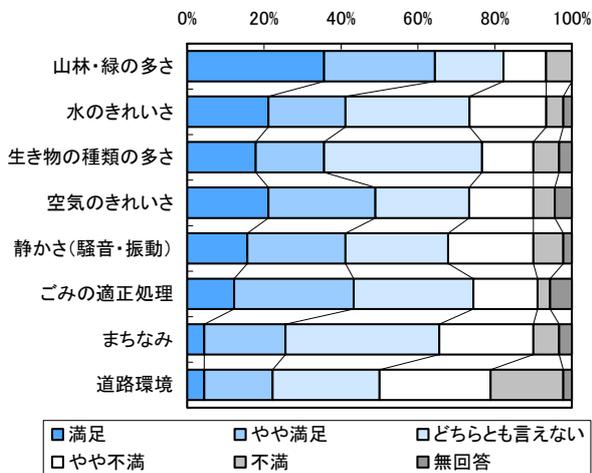
- ◆道ばたの空き地の花植え
- ◆里山の自然に関すること
- ◆登山道の整備
- ◆環境保全（地域清掃）、ごみリサイクル・減量化
- ◆農業を通じたリサイクル活動
- ◆小麦を使った活動
- ◆環境学習などへの呼びかけ
- ◆野生生物調査
- ◆海岸清掃
- ◆山の草刈りに関すること など



事業者

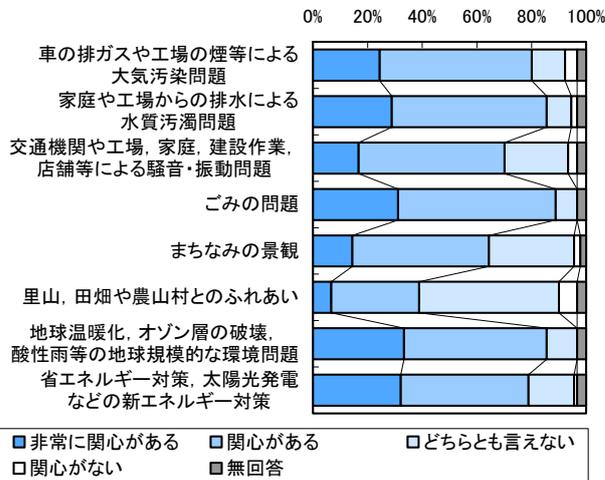
◆環境に対する満足度

「山林・緑の多さ」、「空気のきれいさ」に対しては「満足・やや満足」と感じている人の割合が多い。



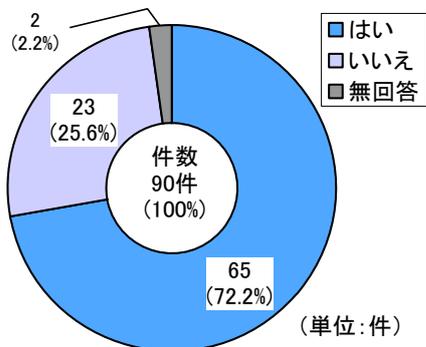
◆環境問題に対する関心度

「ごみの問題」、「大気汚染問題」、「水質汚濁問題」などの関心が高い。



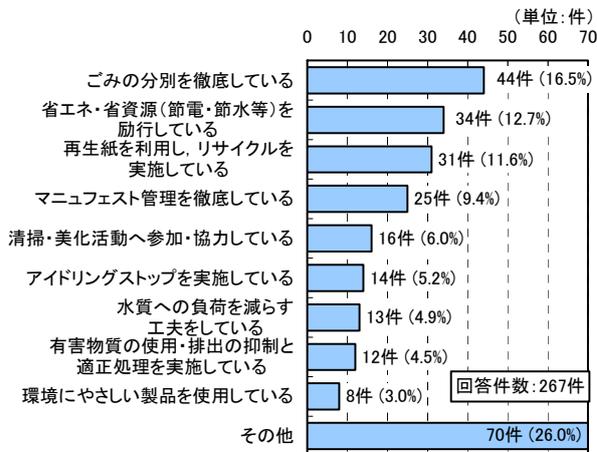
◆環境保全対策

事業者の7割以上は、環境保全のための対策を行っている。



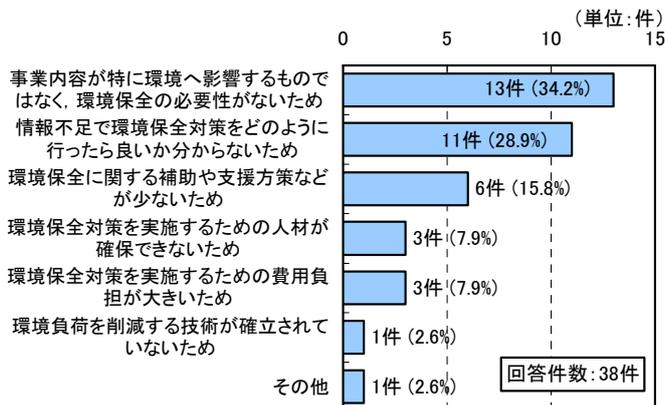
◆環境保全対策の内容

「ごみの分別の徹底」、「省エネ・省資源の励行」、「リサイクルを実施している」などの対策が多い。



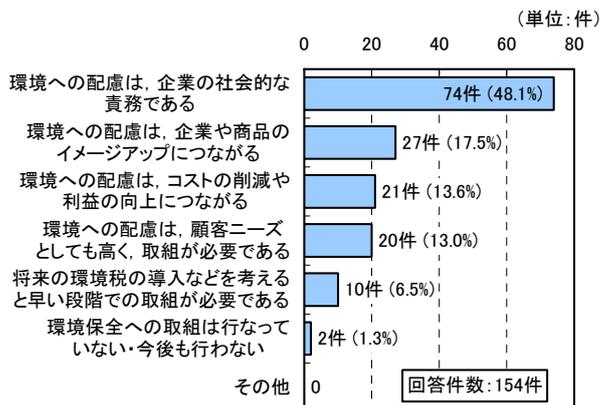
◆環境保全対策が困難な理由

「環境保全の必要性がないため」、「情報不足でどのように行ったら良いかわからないため」が多い。



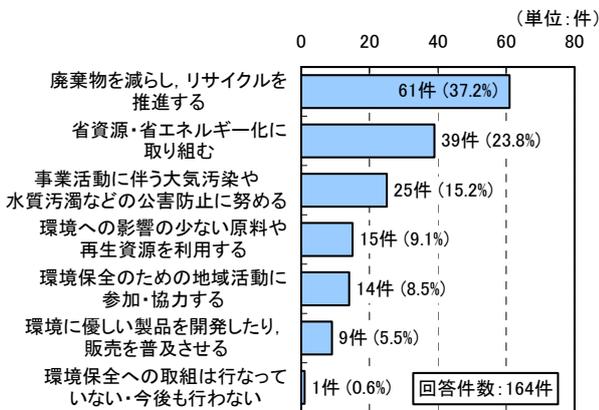
◆環境への取組の考え方

「企業の社会的な責務である」と考えている事業者が多い。



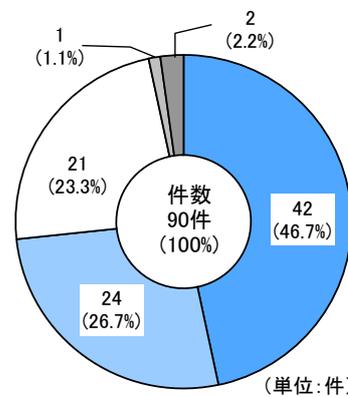
### ◆今後の環境保全への取組

「リサイクルの推進」、「省資源・省エネルギー化の取組」が多い。



### ◆ISO14000シリーズ、エコアクション21について

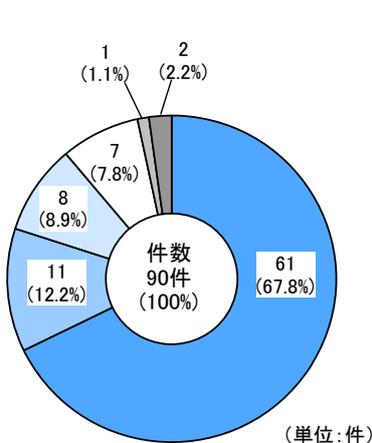
「ISO14000シリーズ」の方が、「エコアクション21」より認識度は高い。



- 「ISO14000シリーズ」は知っているが「エコアクション21」は知らない
- 「エコアクション21」は知っているが「ISO14000シリーズ」は知らない
- 両方知っている
- 両方知らない
- 無回答

### ◆「経済発展」と「環境保全」の関係

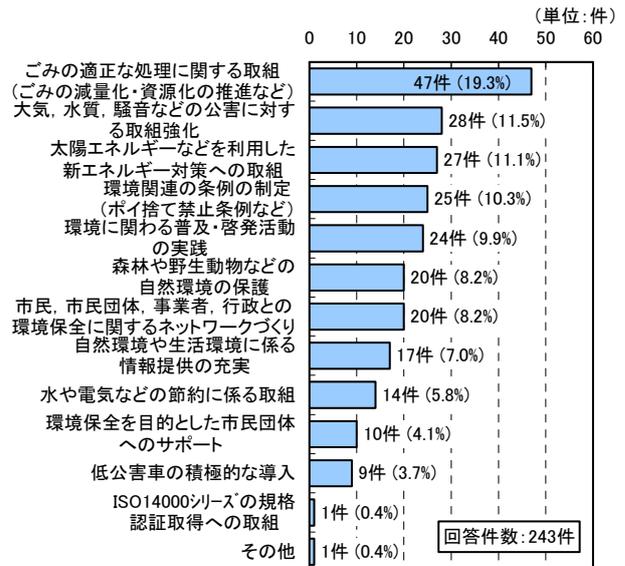
事業者の約7割が「経済発展と環境保全の調和を考えていくべきである」と考えている。



- 経済発展と環境保全の調和を考えていくべきである
- 多少経済発展が犠牲になっても環境保全に取り組むべきである
- 経済発展に関係なく、環境保全を最優先すべきである
- 経済発展を阻害しない程度に環境保全に取り組むべきである
- その他
- 無回答

### ◆三原市に期待すること

三原市に期待することは「ごみの適正処理」、「公害に対する取組強化」などが多い。

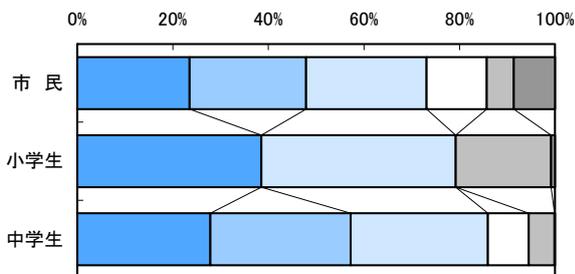


### 主体別意識の比較

市民、小学生、中学生、事業者において、共通質問項目については、意識の相違を把握するため、比較して整理しました。

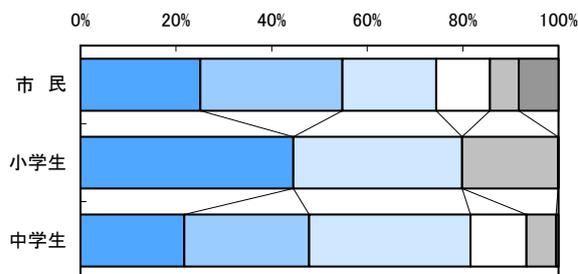
#### ◆環境に対する満足度（自然環境）

「満足」と「やや満足」を合わせた満足度の割合は、中学生が多い。



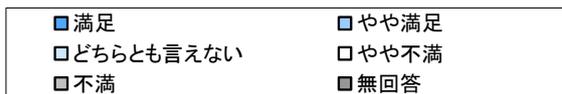
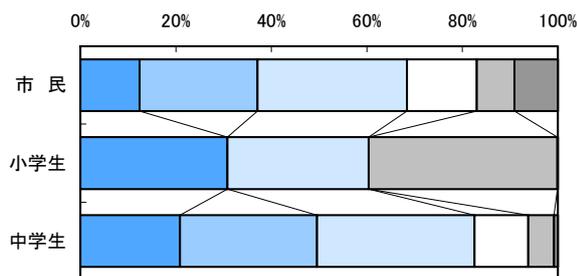
#### ◆環境に対する満足度（生活環境）

「満足」と「やや満足」を合わせた満足度の割合は、市民が多い。



#### ◆環境に対する満足度（快適環境）

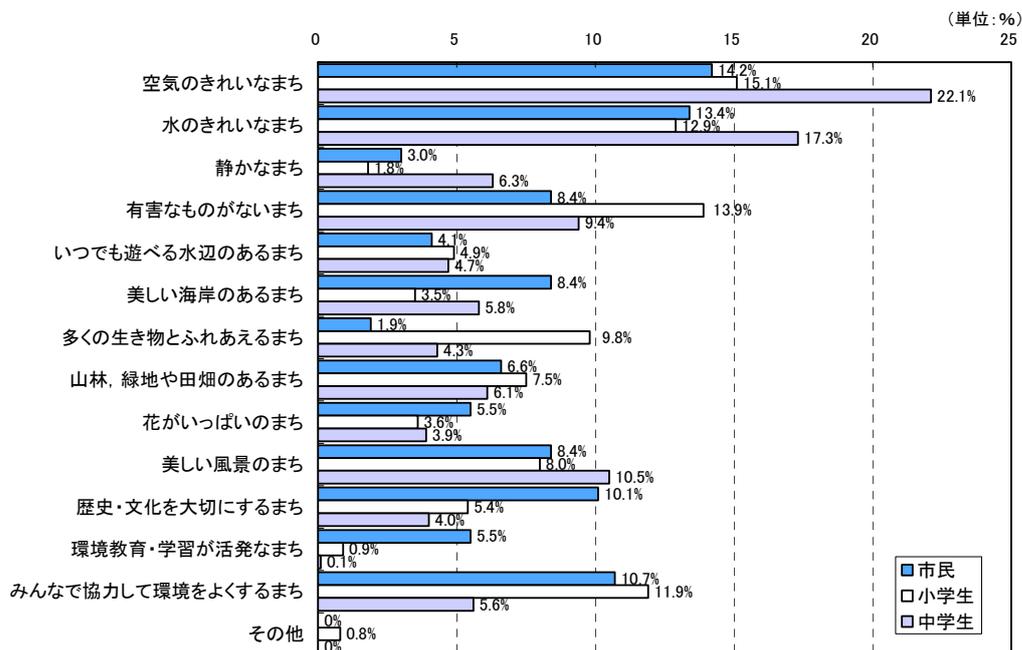
「満足」と「やや満足」を合わせた満足度の割合は、中学生が多い。小学生の「不満」の割合が多い。



※小学生は「満足」、「どちらとも言えない」、「不満」の3区分です。

#### ◆望ましい環境像

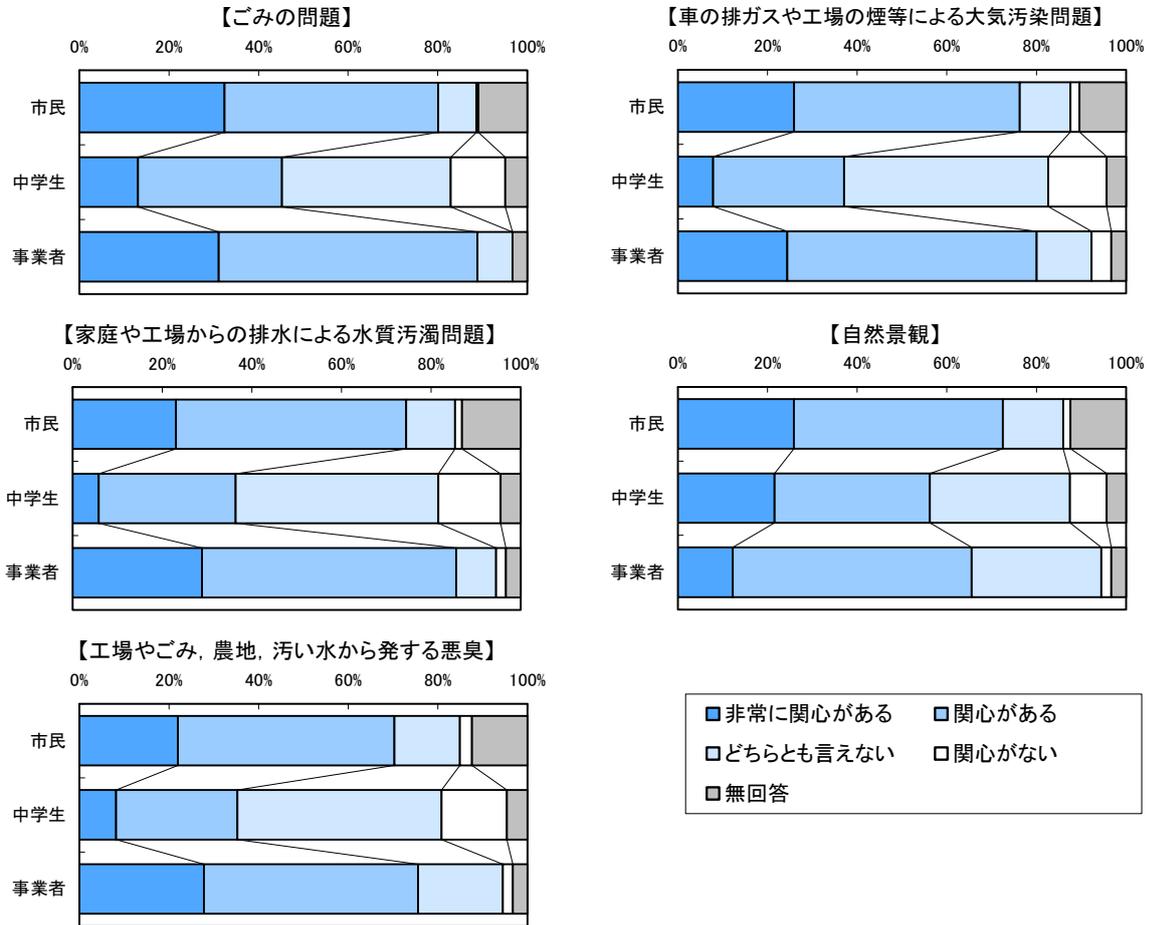
市民、小学生、中学生とも「空気」、「水」などのキーワードが挙げられた。



### ◆関心のある環境問題

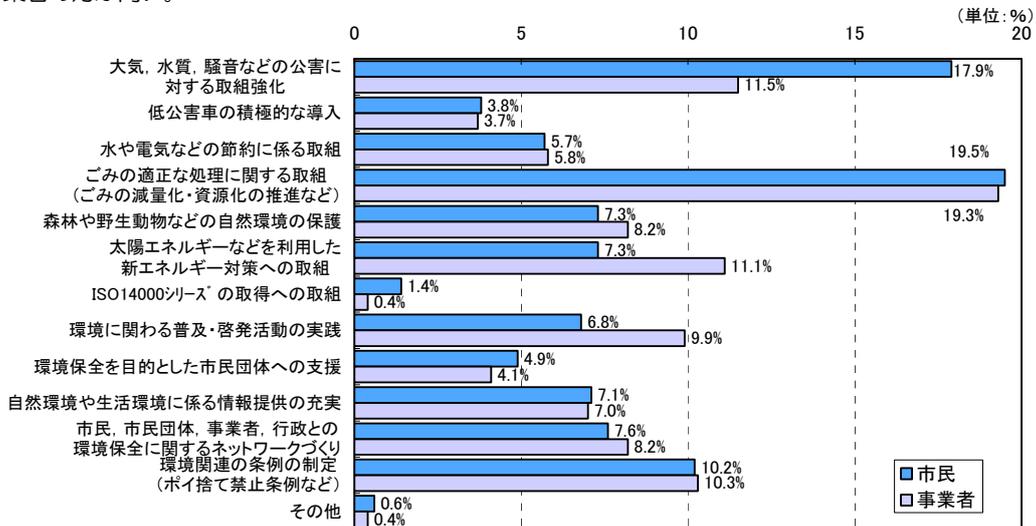
三原市全体で、環境問題に対する関心度の高い、上位5項目について集計した。

「非常に関心がある」と「関心がある」を合わせた割合は、「自然環境」以外の各項目では事業者が市民に比べて若干多く、中学生は「自然景観」、「ごみの問題」への関心度は高いが、他の項目については、関心度が低い。



### ◆三原市に期待すること

市民、事業者とも「ごみの適正処理」の割合が多くなっている。「大気、水質、騒音などの公害に対する取組強化」については、事業者より市民の方が高く、反対に「新エネルギー対策への取組」、「普及・啓発活動の実践」については、事業者の方が高い。



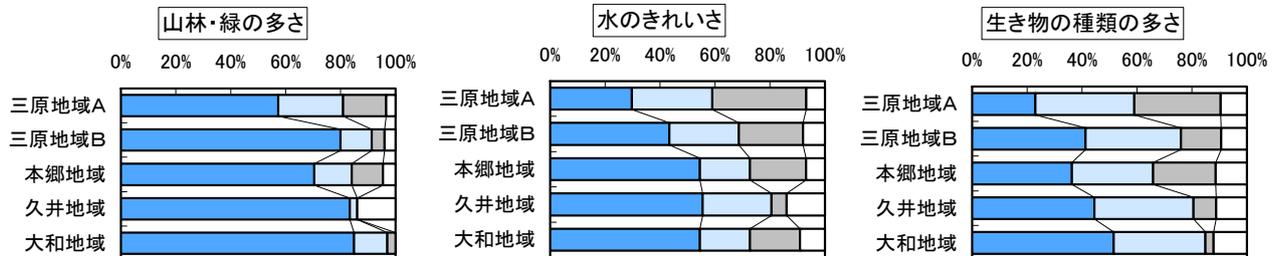
## 地域別意識の比較

市民において、地域別の意識を把握するため、地域別に比較して整理しました。

(注)地域区分については、第3章第3節(73頁)みはらし環境塾を参照。

### ◆環境に対する満足度(自然環境)

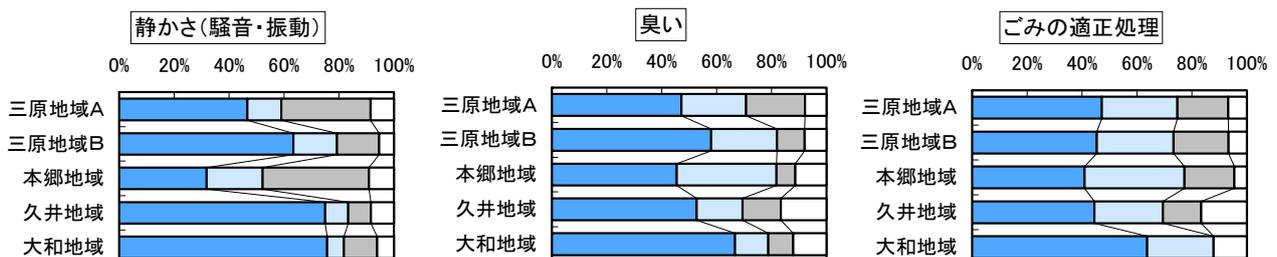
「満足・やや満足」は、「山林・緑の多さ」、「生き物の種類の多さ」については大和地域が、「水のきれいさ」については久井地域が最も多い。「不満・やや不満」は、3項目とも三原地域Aが最も多い。



### ◆環境に対する満足度(生活環境)

「満足・やや満足」は、「空気のきれいさ」については久井地域が、「静かさ(騒音・振動)」、「臭い」、「ごみの適正処理」については大和地域が最も多い。

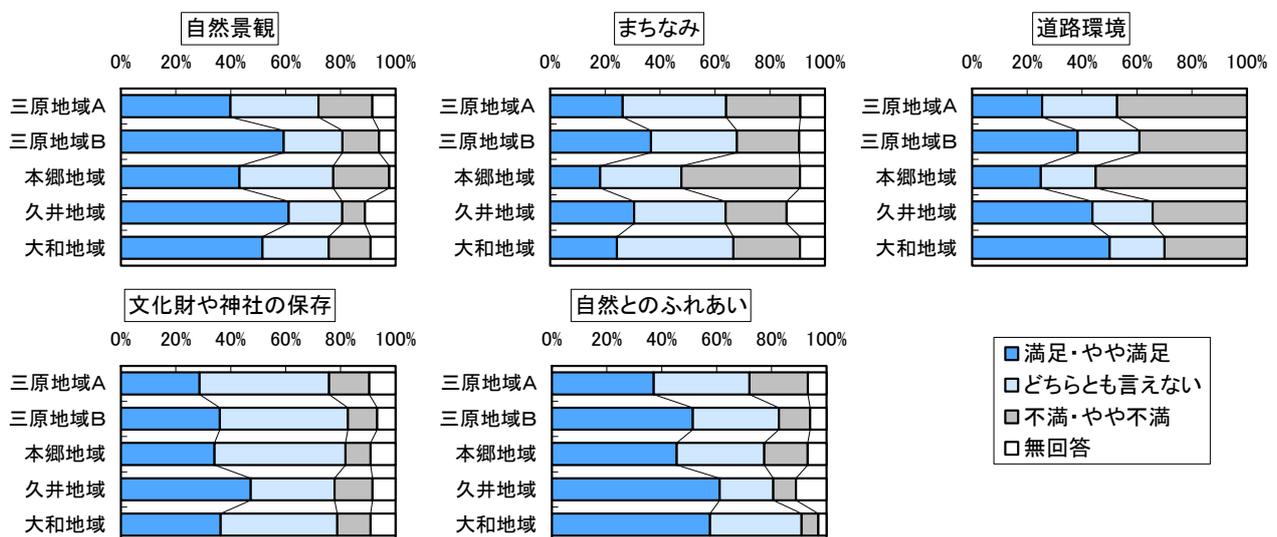
「不満・やや不満」は、「静かさ(騒音・振動)」については本郷地域が最も多く、それ以外の項目については三原地域Aが最も多い。



### ◆環境に対する満足度(快適環境)

「満足・やや満足」は、「公園・広場」、「まちなみ」については三原地域Bが、「自然景観」、「文化財や神社の保存」、「自然とのふれあい」については久井地域が、「道路環境」については大和地域が最も多い。

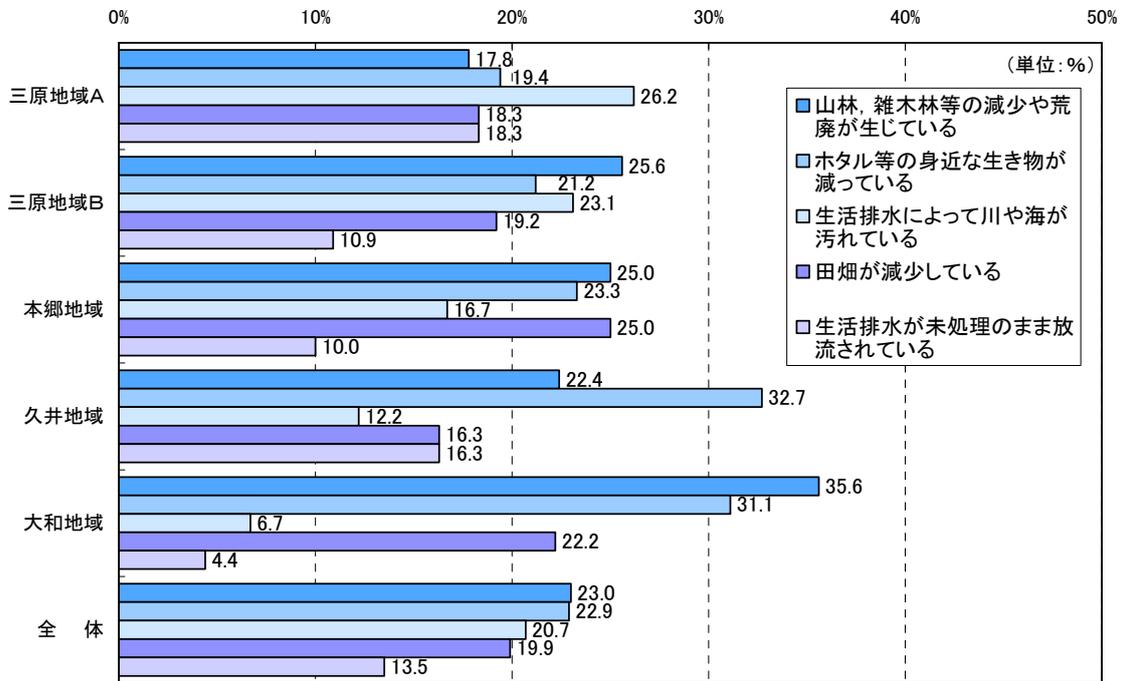
「不満・やや不満」は、「文化財や神社の保存」、「自然とのふれあい」については三原地域Aが最も多く、それ以外の項目については本郷地域が最も多い。



■ 満足・やや満足  
□ どちらとも言えない  
■ 不満・やや不満  
□ 無回答

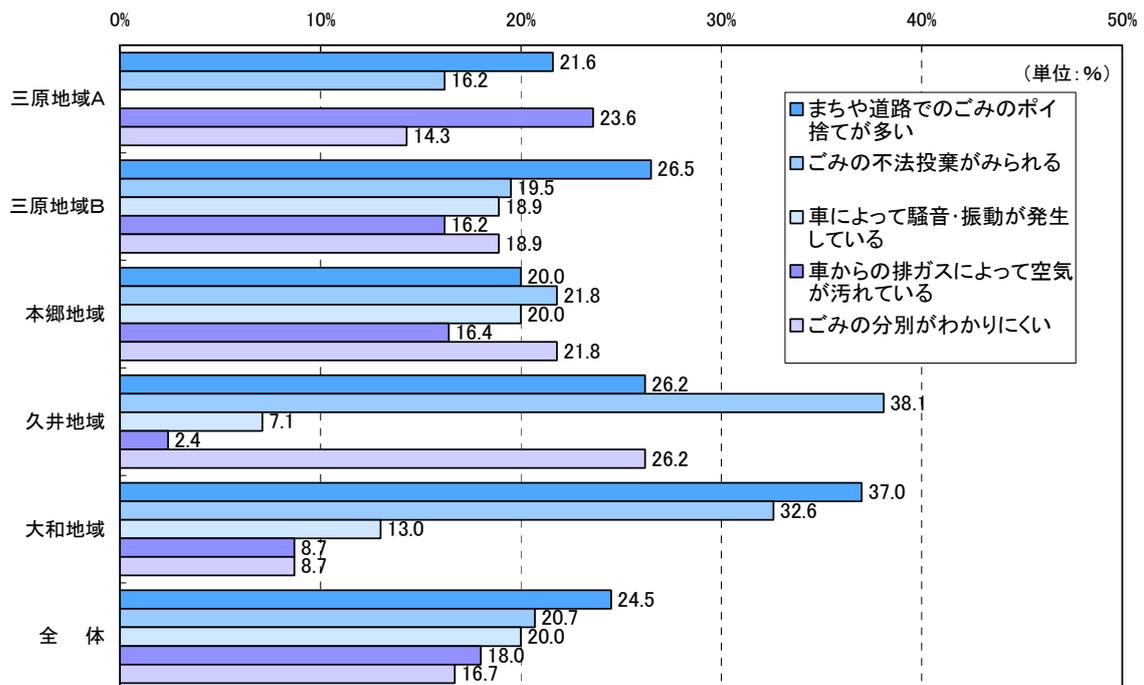
### ◆環境の問題点（自然環境）

三原市全体で、自然環境に対する問題点の上位5項目について集計した。  
 三原地域Aは「生活排水によって川や海が汚れている」、三原地域B、本郷地域、大和地域は「山林、雑木林等の減少や荒廃が生じている」、久井地域は「ホタル等の身近な生き物が減っている」が多い。



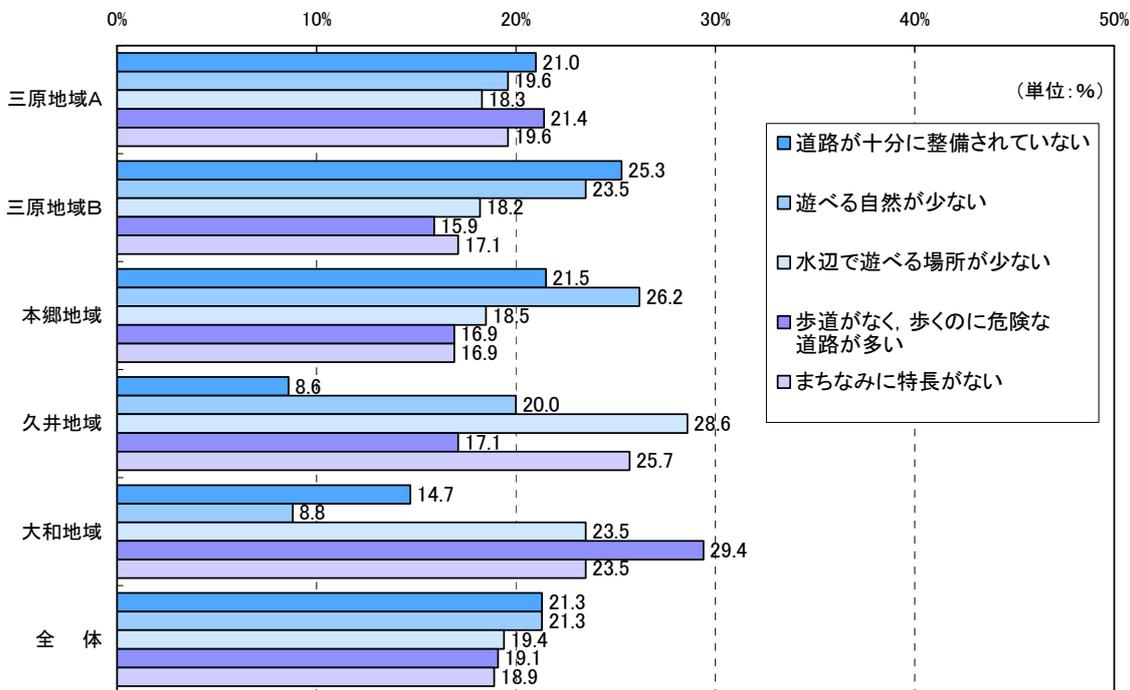
### ◆環境の問題点（生活環境）

三原市全体で、生活環境に対する問題点の上位5項目について集計した。  
 三原地域A、三原地域B、大和地域は「車からの排ガスによって空気が汚れている」、本郷地域、久井地域は「ごみの不法投棄がみられる」が多い。



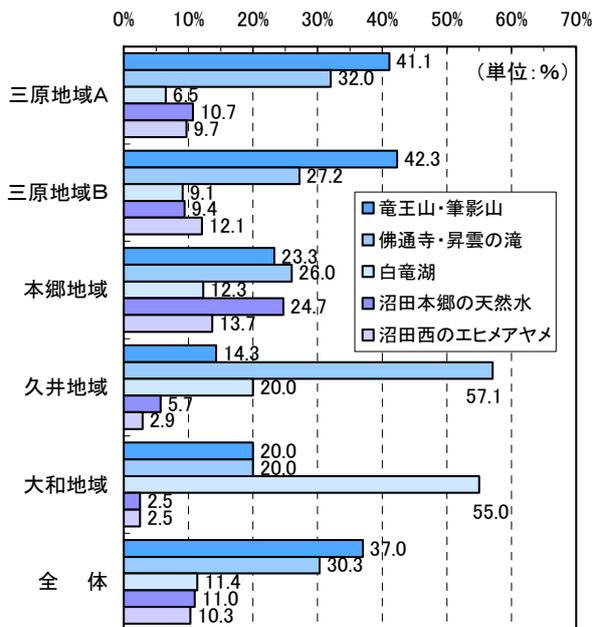
### ◆環境の問題点（快適環境）

三原市全体で、快適環境に対する問題点の上位5項目について集計した。  
 三原地域A、大和地域は「歩道がなく、歩くのに危険な道路が多い」、三原地域Bは「道路が十分に整備されていない」、本郷地域は「遊べる自然が少ない」、久井地域は「水辺で遊べる場所が少ない」が多い。



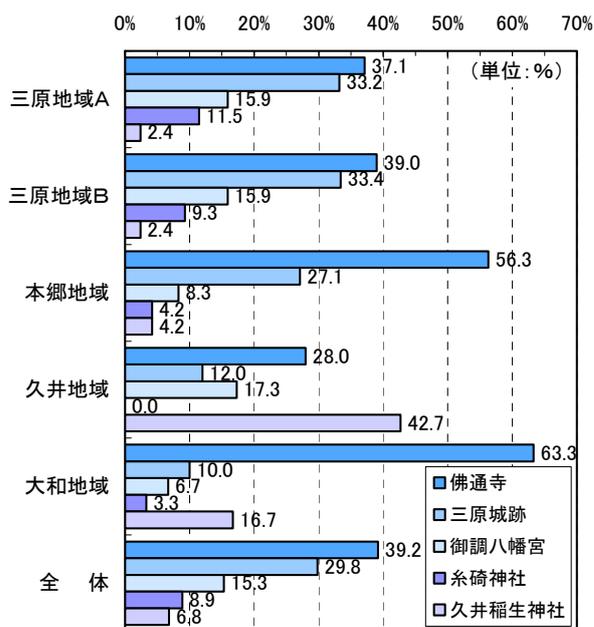
### ◆大切にしたい自然・景観

三原市全体で、大切にしたい自然・景観の上位5項目について集計した。  
 三原地域A、三原地域Bは「竜王山・筆影山」、久井地域は「佛通寺・昇雲の滝」、大和地域は「白竜湖」の割合が多い。



### ◆大切にしたい文化財

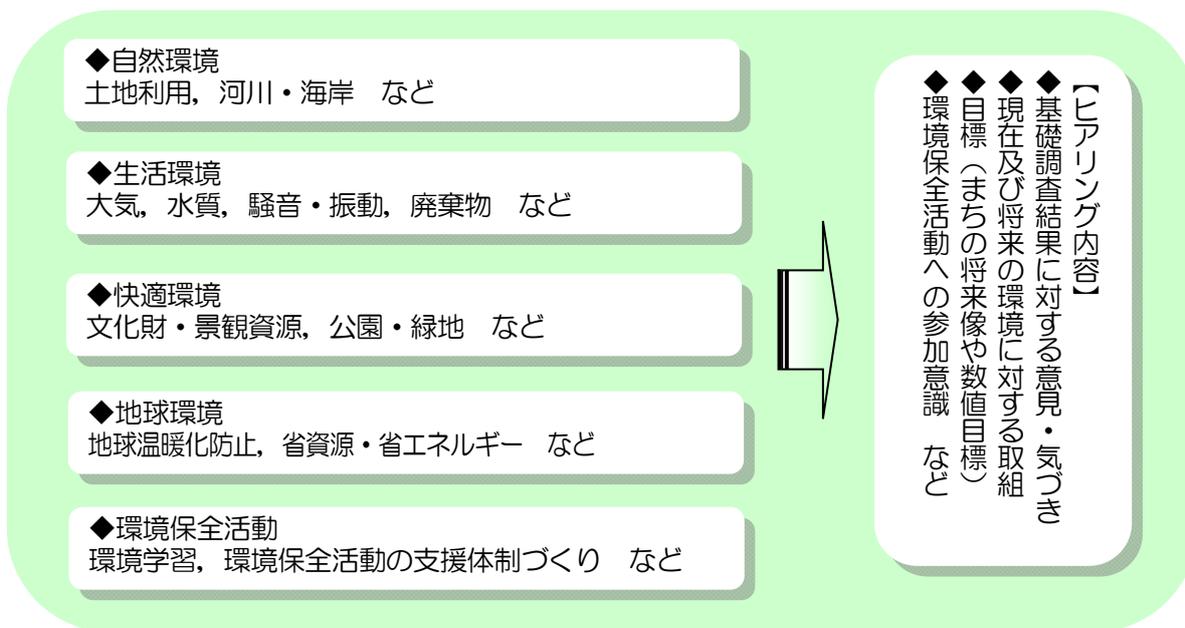
三原市全体で、大切にしたい文化財の上位5項目について集計した。  
 久井地域以外の地域においては「佛通寺」が多く、久井地域は、「久井稻生神社」が多い。



## 2 ヒアリング調査

### (1) 調査概要

環境に対する取組や将来の目標などについて、事業者へヒアリング調査を実施しました。ヒアリング調査は、アンケート調査を補足するとともに、本計画の策定において、環境施策や主体別取組の基礎資料を得ることを目的としています。ヒアリング内容は次のとおりです。

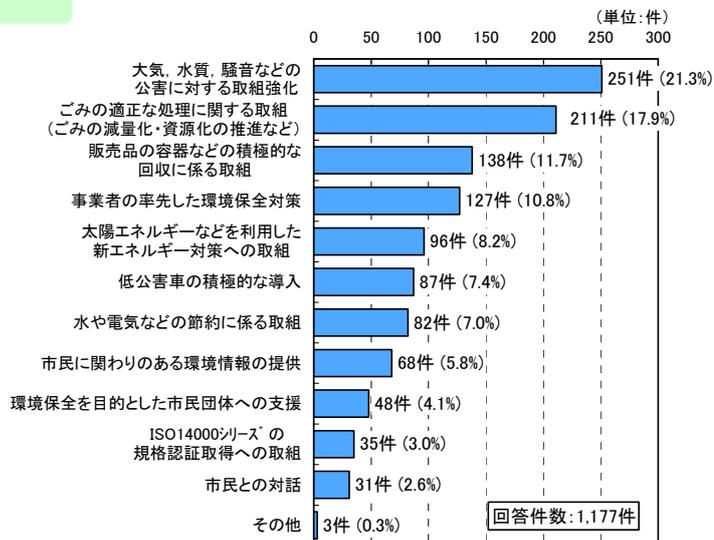


また、アンケート調査結果から市民が事業者へ期待することで、上位3項目についての取組状況もヒアリングしました。

- 大気、水質、騒音などの公害に対する取組強化
- ごみの適正な処理に関する取組（ごみの減量化・資源化の推進など）
- 販売品の容器などの積極的な回収に係る取組

#### ◆市民が事業者へ期待すること

市民が事業者へ期待することは、「大気、水質、騒音などの公害に対する取組強化」が21.3%と最も多く、次に「ごみの適正な処理に関する取組（ごみの減量化・資源化の推進など）」が17.9%、「販売品の容器などの積極的な回収に係る取組」が11.7%となっており、公害に対する取組強化やごみの適切な処理が求められています。



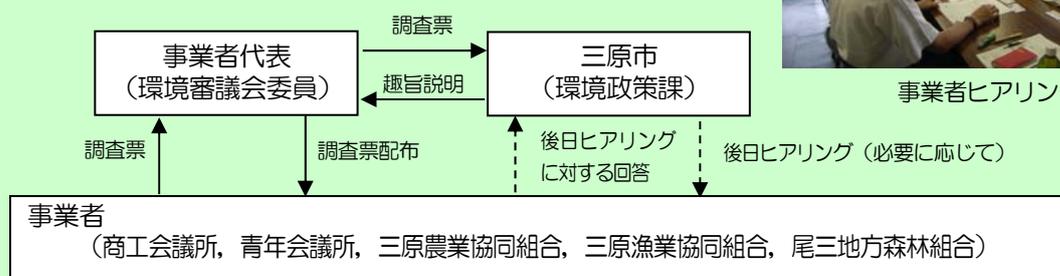
市民が事業者に期待すること

(2) 調査対象及び方法

事業者に対して「環境に対する取組」、「目標（まちの将来像や数値目標）」などについて、調査票に記入してもらい、必要な場合には、後日改めて不明な部分や確認事項についてヒアリングを行いました。ヒアリング調査対象及び調査方法などは次のとおりです。

対象事業者	実施時期	対象事業者	実施時期
◆商工会議所	—	◆青年会議所（5社）	平成19(2007)年6月14日
販売商業部会	平成19(2007)年6月7日	◆三原農業協同組合	平成19(2007)年6月12日
生産工業部会	平成19(2007)年6月12日	◆三原漁業協同組合	平成19(2007)年6月12日
建設部会	平成19(2007)年6月6日	◆尾三地方森林組合	平成19(2007)年6月12日
サービス部会（14社）	平成19(2007)年6月7日 平成19(2007)年7月6日	（参考） 平成19(2007)年6月6日～7月6日において、 計12回実施した。	
運輸車輛部会（9社）	平成19(2007)年6月7日 平成19(2007)年7月6日		
環境問題特別委員会	平成19(2007)年6月6日		

ヒアリング調査方法



事業者ヒアリング

(3) 調査結果

調査結果は、本計画の望ましい環境像、環境施策、主体別取組に反映させるとともに、ここでは、平成18(2006)年度に行ったアンケート調査で、市民が事業者へ期待する取組についての状況を整理しています。

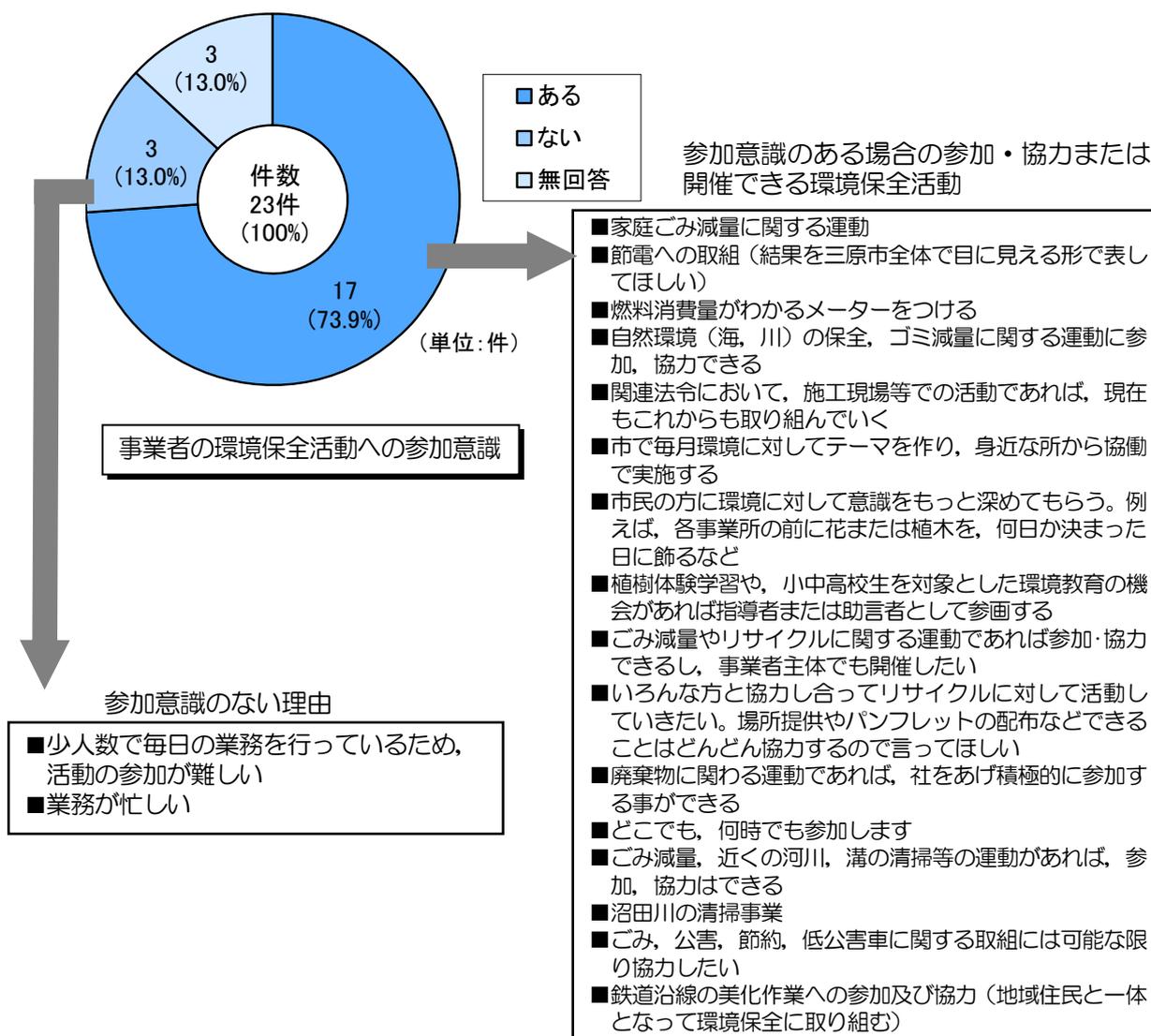
◆事業者の取組状況

項目	取組内容	
大気、水質、騒音などの公害に対する取組	現在	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自動車の整備点検を行っている</li> <li>■排水を適正に処理している</li> <li>■騒音・振動が発生する場合は、事前に安全会議等で協議し、低騒音、低振動型の機械を使用する等の防止対策を講じている</li> <li>■組合員農家が生産し市場へ出荷する作物について、栽培暦を定め農薬使用の減量に努めている</li> <li>■夜間の作業をしないことで近所への騒音による迷惑をかけない様になっている</li> <li>■長期滞在時のアイドリング・ストップ<sup>※</sup>活動をしようとしているがエンジンを切ってしまうと、パッカー作業が出来ない為、現段階では作業時間短縮（スピーディーな回収）を心がけるよう指導している</li> <li>■カラー現像機からの廃液は業者にて処理している</li> <li>■エコドライブ<sup>※</sup>を実施している（急発進、急加速及び無駄なアイドリング防止、法定速度の遵守）</li> <li>■こまめに車輛点検を実施している</li> </ul>
	5年後	<ul style="list-style-type: none"> <li>■自動車利用を自粛する（近場は徒歩等）</li> <li>■引き続き、排水を適正に処理する</li> <li>■引き続き、騒音・振動が発生する場合は、事前に安全会議等で協議し、低騒音、低振動型の機械を使用する等の防止対策を講じる</li> <li>■農薬の少量散布技術を用いたパंकルスプレーヤー等による農薬散布を推奨推進することにより環境負荷の削減を図る</li> <li>■引き続き、温暖化防止に取り組む</li> </ul>
	10年後	<ul style="list-style-type: none"> <li>■有機減農薬栽培への全面的な切り替えを行う</li> <li>■引き続き、温暖化防止に取り組む</li> </ul>
ごみの適正な処理に関する取組	現在	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ごみの減量化を行っている</li> <li>■過剰包装を控えている</li> <li>■自社及び施工現場において発生したごみ、廃棄物等は関連法令を順守し、減量化及び再資源化、再利用の推進、適正処理に努めている</li> <li>■建築資材等の過剰包装の自粛を行っている</li> <li>■現在使用済の管を集めて呉市の業者に送って、リサイクルしている</li> <li>■木伐産業廃棄物のリサイクル事業を稼働している</li> <li>■店舗回りのごみ掃除を行っている</li> <li>■ごみ分別の徹底（可燃物、不燃物、資源物）に努めている</li> <li>■資源物（シュレッダーごみ、新聞、ダンボール等）をリサイクルするために2回/月の頻度で回収している</li> <li>■コピー済み用紙の裏面活用とコピー頻度の削減推進（ミス、ムダの防止）、ペーパーレスに努めている</li> </ul>
	5年後	<ul style="list-style-type: none"> <li>■廃棄する割合の少ない材料を使用する</li> <li>■再利用のできるものを使用する</li> <li>■ごみの分別をさらに強化し、資源化に努める</li> <li>■トレー等を極力使わない様にする</li> <li>■色々な対策、アイデアを取り入れ年間を通じて活動を展開することにより、取組の定着化を図る</li> </ul>
	10年後	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ごみの排出量を現状より30%削減する</li> <li>■生産された木伐チップに付加価値を加え第一次産業に活用する</li> <li>■店舗や会社レベルではなく町全体を巻き込んだリサイクル事業をする</li> <li>■引き続き、色々な対策、アイデアを取り入れ年間を通じて活動を展開することにより定着化を図る</li> <li>■地域と一体となった取組を推進する</li> </ul>

項目	取組内容	
販売品の容器などの積極的な回収に係る取組	現在	<ul style="list-style-type: none"> <li>■容器が少なくなるよう努めている</li> <li>■関連法令を順守し、再資源化、再利用に取り組んでいる</li> <li>■農業用廃プラスチック等、農業生産に関わる廃棄物を農家組合員の委託により回収している</li> <li>■マイバック持参を推進している</li> <li>■容器包装リサイクル（自治体のルール）に従って排出している</li> <li>■発生する駅ごみ等で分別回収を実施している</li> </ul>
	5年後	<ul style="list-style-type: none"> <li>■容器がなくなるよう努める</li> <li>■引き続き、農業用廃プラスチック等、農業生産に関わる廃棄物を回収する</li> <li>■引き続き、マイバック持参を推進する</li> </ul>
	10年後	<ul style="list-style-type: none"> <li>■引き続き、容器がなくなるよう努める</li> <li>■引き続き、農業用廃プラスチック等、農業生産に関わる廃棄物を回収する</li> </ul>

◆環境保全活動への参加意識

事業者の環境保全活動への参加意識は次のとおりです。



## 第2節 地域別環境の現状

既存文献、アンケート調査結果、ヒアリング調査結果より整理した、地域別に見た環境の現状は次のとおりです。

### 1 三原地域A

#### (1) 地域の概況

人口： 48,016 人（平成26(2014)年3月31日現在）  
世帯数： 21,848 世帯（平成26(2014)年3月31日現在）  
面積： 128.61 km<sup>2</sup>（三原市に占める面積の割合27.3%）

- 三原市の東部に位置し、商業施設や公共施設等が集積する本市の中心地であり、JR山陽本線・山陽新幹線のほか、国道2号、主要地方道尾道三原線などの主要幹線道路が通過する交通の要衝になっています。
- 針葉樹林を中心とする山林が広がり、沼田川河口部付近には住宅地、商業地、工業地が集積しています。
- 古くから城下町として、また海上交通の要衝として栄え、戦後は帝人(株)、三菱重工業(株)の工場の立地によって近代工業都市として発展しました。



#### (2) 環境の現状

##### 自然環境

- コバノミツバツツジ-アカマツ群集が大部分を占めています。
- メヤブソテツ、ウチョウランなどの希少植物が12種、トンガリササノハガイ、メダカなどの希少動物が17種確認されています。
- 瀬戸内海国立公園鳴滝山、仏通寺御調八幡宮県立自然公園など自然豊かな環境が残っていますが、松枯れなど山林の荒廃もみられます。
- アンケート調査結果では、「山林・緑」、「生き物の種類」について不満と感じている人が多くなっています。

##### 生活環境

- 大気について、光化学オキシダントは宮浦公園で環境基準未達成となっています。
- 水質について、河川のBODは環境基準の類型が指定されている5カ所の測定地点では、環境基準を達成していますが、沼田川では水質の悪化がうかがえます。海域のCOD、全窒素<sup>※</sup>、全リン<sup>※</sup>は環境基準を達成していますが、溶存酸素量は環境基準未達成の時期がみられます。
- 騒音について、環境騒音は、広島県全体の状況と比較すると、一般地域の昼間及び夜間における環境基準達成率が低くなっています。道路交通騒音は、6カ所の測定地点のうち国道2号の2カ所、市道宮沖40号線の1カ所で環境基準未達成となっています。新幹線騒音は環境基準を達成しています。
- アンケート調査結果では、「空気」、「臭い」、「ごみの適正処理」について不満と感じている人、生活排水によって川や海が汚れていると感じている人、車からの排ガスによって空気が汚れていると感じている人、まちや道路でのごみのポイ捨てが多いと感じている人が多くなっています。

##### 快適環境

- 三原城跡、佛通寺含暉院地藏堂、御調八幡宮、極楽寺本堂、糸碓神社などの文化財・史跡があります。
- 瀬戸内海国立公園鳴滝山、仏通寺御調八幡宮県立自然公園、昇雲の滝、鉢ヶ峰などの景観資源があります。
- JR山陽新幹線、山陽自動車道（三原久井IC）などによる高速交通ネットワークのほか、JR山陽本線・呉線、国道2号、重要港湾尾道糸崎港の三原内港などによる交通網が形成されています。
- 宮浦公園、三原歴史民族資料館、やはた川自然公園、高坂自然休養村キャンプ場などのレクリエーション施設があります。
- 三原・本郷地域の水道普及率は98.4%で、ほぼ全域に水道が普及しています。
- 市街地を中心に、下水道が整備されています。
- アンケート調査結果では、佛通寺、三原城跡を大切にしたい文化財と感じている人、佛通寺、昇雲の滝は、大切にしたい景観資源と感じている人が多くなっています。一方で、「文化財や神社の保存」、「自然とのふれあい」について不満を感じている人が多くなっています。

## 2 三原地域B

### (1) 地域の概況

人口： 28,673 人（平成26(2014)年3月31日現在）  
世帯数： 12,635 世帯（平成26(2014)年3月31日現在）  
面積： 76.17 km<sup>2</sup>（三原市に占める面積の割合16.2%）



- 三原市の南部に位置し、JR呉線、国道185号、主要地方道三原竹原線などの道路網と瀬戸内海島しょ部とを結ぶ航路があります。
- 小起伏山地や大起伏丘陵地が分布し、沼田川河口部付近には三角州性低地が形成されています。
- 針葉樹林を中心とする山林が広がり、駒月川沿いは水田、沼田川河口部付近は住宅地となっています。

### (2) 環境の現状

#### 自然環境

- 海岸は人工海岸が多いですが、幸崎町や佐木島に干潟がみられます。
- コバノミツバツツジ-アカマツ群集が広く分布し、水田には水田雑草群落がみられます。
- デンジソウ、エヒメアヤメなどの希少植物が15種、メダカ、ゴクラクハゼなどの希少動物が26種確認されています。
- 瀬戸内海国立公園に筆影山及び沿岸域、自然海浜保全地区に佐木大野浦及び柄鎌瀬戸が指定されています。
- アンケート調査結果では、山林、雑木林等の減少や荒廃が生じていると感じている人が多くなっています。

#### 生活環境

- 大気について、二酸化硫黄、二酸化窒素、光化学オキシダントはほぼ横ばい、浮遊粒子状物質は減少傾向にあります（沼田東小学校：平成15(2003)年度まで測定し、後廃局）。
- 水質について、河川のBODは環境基準の類型が指定されている4カ所の測定地点では、環境基準を達成していますが、沼田川では水質の悪化がうかがえます。海域のCOD、全窒素、全リンは環境基準を達成していますが、溶存酸素量は環境基準未達成の時期がみられます。海域における底質のCODは、水産用水基準を満たしています。
- 環境騒音は、広島県全体の状況と比較すると、一般地域の昼間における環境基準達成率が低くなっています。

#### 快適環境

- 兜山古墳、小早川隆景墓、南山資料館、磨崖和霊石地藏などの文化財・史跡があります。
- 瀬戸内海国立公園筆影山、佐木大野浦と柄鎌瀬戸の2カ所の自然海浜保全地区、竜王山、白滝山・黒滝山などの景観資源があります。
- 三原運動公園のほか、市街地を中心に街区公園、幼児公園があります。
- JR呉線、国道185号、主要地方道三原竹原線、地方港湾須波港などによる交通ネットワークが形成されています。
- すなみ海浜公園、三原運動公園、さざなみ学校、さぎしま青年の家などのレクリエーション施設があります。
- 三原・本郷地域の水道普及率は98.4%で、ほぼ全域に水道が普及しています。
- 市街地を中心に、下水道が整備されています。
- アンケート調査結果では、竜王山、筆影山を大切にしたい景観資源と感じている人、道路が十分に整備されていないと感じている人が多くなっています。また、「公園・広場」、「まちなみ」について満足と感じている人が多くなっています。

### 3 本郷地域

#### (1) 地域の概況

人口： 11,190 人（平成26(2014)年3月31日現在）  
世帯数： 4,595 世帯（平成26(2014)年3月31日現在）  
面積： 82.19 km<sup>2</sup>（三原市に占める面積の割合17.4%）



- 三原市の西部に位置し、広島空港、JR山陽本線、山陽自動車道（本郷IC）など高速ネットワークが形成されています。
- 小起伏山地、大起伏丘陵地がみられ、沼田川などの河川沿いに扇状地性低地が分布しています。
- 針葉樹林を中心とする山林が地域の大部分を占め、谷底平野とその周辺部は水田として利用されています。
- 古くは穀倉地帯で、山陽道の要衝としての役割を担っていました。

#### (2) 環境の現状

##### 自然環境

- コバノミツバツツジ-アカマツ群集が広く分布し、水田には水田雑草群落、北部には伐跡群落がみられます。
- マルバオモダカ、エビネ、ツルマンリョウなどの希少植物が22種、スジシマドジョウ、メダカなどの希少動物が11種確認されています。
- 広島空港周辺には竹林寺用倉山県立自然公園、新広島空港・中央森林公園特定猟具（銃器）使用禁止区域があり、沼田川は沼田川鳥獣保護区\*となっています。

##### 生活環境

- 大気について、船木小学校測定局における二酸化窒素、浮遊粒子状物質は環境基準を達成していますが、光化学オキシダントは環境基準未達成となっています。
- 水質について、河川のBODは環境基準の類型が指定されている2カ所の測定地点では、環境基準を達成していますが、沼田川では水質の悪化がうかがえます。
- 環境騒音は、広島県全体の状況と比較すると、一般地域の昼間、道路に面する地域の夜間における環境基準達成率が低くなっています。
- 道路交通騒音は、3カ所の測定地点のうち国道2号の夜間1地点で環境基準未達成となっています。
- アンケート調査結果では、「静かさ（騒音・振動）」について不満を感じている人が多くなっています。

##### 快適環境

- 楽音寺本堂、新高山城跡、横見廃寺跡、梅木平古墳、永福禅寺などの文化財・史跡があります。
- 竹林寺用倉山県立自然公園、三段の滝（三景園）、船木峡、女王滝、瀑雪の滝、白扇の滝、沼田本郷の天然水などの景観資源があります。
- 本郷総合公園、三景園のほか、10カ所の街区公園があります。
- 広島空港、JR山陽本線、山陽自動車道（本郷IC）などによる高速交通ネットワークが形成されています。
- 中央森林公園、三景園、善入寺温泉スタンド、本郷体育センター、一楽池ふれあいの里などのレクリエーション施設があります。
- 三原・本郷地域の水道普及率は98.4%で、ほぼ全域に水道が普及しています。
- 市街地を中心に、下水道が整備されています。
- アンケート調査結果では、「公園・広場」、「まちなみ」「自然景観」、「道路環境」について不満を感じている人、居住地周辺の環境に問題があると感じている人、遊べる自然が少ないと感じている人が多くなっています。



白扇の滝

## 4 久井地域

### (1) 地域の概況

人口： 4,733 人（平成26(2014)年3月31日現在）  
世帯数： 1,946 世帯（平成26(2014)年3月31日現在）  
面積： 62.17 km<sup>2</sup>（三原市に占める面積の割合13.2%）



- 三原市の北東部に位置し、山陽自動車道、国道486号が通過しています。
- 小起伏山地がほとんどを占め、御調川沿いに扇状地性低地が分布しています。
- 針葉樹林を中心とする山林が地域の大部分を占め、谷底平野とその周辺部は水田として利用されています。
- 古くは穀倉地帯で、山陽道の要衝としての役割を担っていました。

### (2) 環境の現状

#### 自然環境

- コバノミツバツツジ-アカマツ群集が広く分布し、水田には水田雑草群落がみられます。
- サギソウ、イシモチソウなどの希少植物が25種、コバネアオイトトンボ、ゴマシジミ、スジシマドジョウなどの希少動物が46種確認されています。
- 仏通寺御調八幡宮県立自然公園の一部、吉田鳥獣保護区が分布しています。
- アンケート調査結果では、「水のきれいさ」について満足と感じている人が多くなっています。一方で、ホタルなどの身近な生き物が減っていると感じている人が多くなっています。

#### 生活環境

- 久井町老人福祉センターなど静隠が必要とされる施設がある江木地区などに騒音・振動規制区域が指定されています。
- アンケート調査結果では、「空気のきれいさ」について満足と感じている人が多くなっています。一方で、ごみの分別がわかりにくいと感じている人が多くなっています。まちや道路でのごみのポイ捨てが多く、ごみの不法投棄がみられると感じている人が多くなっています。

#### 快適環境

- 杭の牛市跡、久井稻生神社、末近信賀の墓などの文化財・史跡があります。
- 国指定天然記念物久井の岩海、県指定天然記念物吉田のギンモクセイ、<sup>あそつばら</sup>筋原のオガタタマノキがあり、景観資源としては吉田大池、吉田山罅穴群があります。夏になると、地域のため池で、きれいな沼や池に育つといわれるジュンサイの収穫風景がみられます。
- 山陽自動車道、国道486号、主要地方道三原東城線が通過しています。
- 宇根山天文台・家族旅行村、久井青年の家、三原市久井歴史民俗資料館、江木スポーツ広場、久井運動公園などのレクリエーション施設があります。
- 簡易水道の普及率は6.7%となっています。
- アンケート調査結果では、「自然景観」、「文化財や神社の保存」、「自然とのふれあい」について満足と感じている人、久井稻生神社を大切にしたい文化財と感じている人が多くなっています。一方で、水辺で遊べる場所が少ないと感じている人、まちなみに特徴がないと感じている人が多くなっています。



ジュンサイ採りの様子

## 5 大和地域

### (1) 地域の概況

人口： 6,305 人（平成26(2014)年3月31日現在）  
世帯数： 2,708 世帯（平成26(2014)年3月31日現在）  
面積： 121.88 km<sup>2</sup>（三原市に占める面積の割合25.9%）



- 三原市の北部に位置し、国道 432 号、486 号、主要地方道本郷大和線などが通過しています。
- 小起伏山地がほとんどを占め、芦田川、能良川沿いに扇状地性低地が分布しています。
- 針葉樹林を中心とする山林が地域の大部分を占め、谷底平野とその周辺部は水田として利用されています。

### (2) 環境の現状

#### 自然環境

- コバノミツバツツジ-アカマツ群集が広く分布し、水田には水田雑草群落がみられます。
- カキツバタ、サギソウなどの希少植物が 19 種、ハネビロエソトンボ、ヒョウモンモドキ、メダカなどの希少動物が 19 種確認されています。
- 徳良鳥獣保護区、三育学院学校林深見鳥獣保護区が分布しています。
- アンケート調査結果では、「山林・緑」、「生き物の種類」について満足と感じている人が多くなっています。一方で、山林、雑木林等の減少や荒廃が生じていると感じている人、ホタル等の身近な生き物が減っていると感じている人が多くなっています。

#### 生活環境

- 水質について、河川の BOD は、棕梨川（流入前）、棕梨貯水池のいずれも環境基準を達成していますが、近年水質の悪化がうかがえます。
- 和木地区、大和支所周辺などに騒音・振動規制区域が指定されています。
- アンケート調査結果では、「静かさ（騒音・振動）」、「臭い」、「ごみの適正処理」について満足と感じている人が多くなっています。また、まちや道路でのごみのポイ捨てが多く、ごみの不法投棄がみられると感じている人が多くなっています。

#### 快適環境

- 黒谷古墳、堀城（棕梨城）跡、棲真寺定ヶ原石塔などの文化財・史跡があります。
- 県指定文化財下草井八幡神社のツガ、芦田川源流、上草井八幡神社のモミ、桃の花見（向用倉農業公園）、白竜湖、天境峰などの景観資源があります。
- 国道 432 号、486 号、主要地方道本郷大和線、三次大和線により道路網が形成されています。
- 白竜湖スポーツ村公園、白竜湖親水公園、果実の森公園、棲真寺山オートキャンプ場、大和スポーツ広場などのレクリエーション施設があります。
- 簡易水道の普及率は 33.9%となっています。
- 和木地区で下水道、萩原地区及び下徳良地区に農業集落排水が整備されています。
- アンケート調査結果では、白竜湖を大切にしたい景観資源と感じている人が多くなっています。「道路環境」について満足と感じている人が多くなっている一方で、歩道がなく歩くのに危険な道路が多いと感じている人が多くなっています。

1 みはらし環境塾とは

みはらし環境塾は、本市を三原地域A（沼田川北側）、三原地域B（沼田川南側）、本郷地域、久井地域、大和地域の5地域に分け、地域の環境特性や課題などを把握し、“みどり”、“水辺”、“エコライフ”<sup>(注)</sup>のカテゴリー（種類）別に将来の望ましい環境像を描き、そのために必要な施策を提案、企画する場であるとともに、環境保全活動を推進する人材育成の場として開催しました。

地域区分については、地域活動の特性や市民の基本的な行動範囲などを考慮した上で区分し、みはらし環境塾での成果は、「三原市環境基本計画」を策定するための資料としました。

また、この成果を結果として終わらせることのないように、地域ごとの市民などが主体的に関わる重点プロジェクト（目的達成のための計画）を5年計画でまとめ、5地域で計15のプロジェクトの提言を完成させました。



美しいみどりを活かすまちづくりプロジェクト	もったいないの気持ちでゴミを出さないまちづくりプロジェクト
きれいで遊べるいよしの水辺づくりプロジェクト	四季折々の自然を楽しむ郷づくりプロジェクト
ゴミを捨てない、捨てさせないまちづくりプロジェクト	心安らく水辺空間再生プロジェクト
里地里山復元プロジェクト	省エネ生活実践プロジェクト
沼田川環境学習の拠点づくりプロジェクト	自然を活かした里山づくりプロジェクト
家庭発沼田川エコプロジェクト	きれいで豊かな川を守るプロジェクト
本郷まるごと森林公園づくりプロジェクト	もったいないライフのまちづくりプロジェクト
子どもが遊びに行きたくなる川づくりプロジェクト	

(注) みどり：山林、農用緑地、動植物、公園緑地 など  
 水辺：河川、海岸、親水空間（公園）、各種水域 など  
 エコライフ：省・新エネルギー、ゴミ減量など生活や居住内に関すること など



みはらし環境塾の様子（久井地域）



山陽自動車道沿いの駐車スペースでの現地調査の様子



みはらし環境塾の様子（大和地域）

## 2 実施期間と参加者

みはらし環境塾の実施期間は、平成 18(2006)、19(2007)年度の2カ年で、実施にあたっては、その参加者を三原市全域に広く公募しました。みはらし環境塾の参加者は、30代から80代の方でその総数は101人。内訳は次のとおりです。

なお、みはらし環境塾では参加者を“塾生”と呼び、塾生同士が地域と地域の環境についてともに学び考える「ワークショップ方式」を取り入れて実施しました。

ワークショップ方式とは、参加者が自ら体験し、グループ相互の作業の中で意見を出し合う方式です。

地域名	人数(男女比)
三原地域A	20人(男14 女6)
三原地域B	16人(男11 女5)
本郷地域	23人(男21 女2)
久井地域	24人(男9 女15)
大和地域	18人(男11 女7)
合計	101人(男66 女35)

## 3 みはらし環境塾の内容

実施回数とねらい、各回の主な内容は次のとおりです。

- 実施回数 7回 《平成 18(2006)年度3回、19(2007)年度4回》
- 各回の主な内容

第1回 《課題の整理》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション</li> <li>・重点プロジェクトを企画するための、地域課題の抽出及び調査ポイントの選定</li> </ul>
第2回 《現地調査》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回で抽出された地域課題の現地調査</li> </ul>
第3回 《情報の整理》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査結果の整理</li> </ul>
第4回 《企画づくり》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画の基礎学習</li> <li>・重点プロジェクトのテーマ選定</li> </ul>
第5回 《企画の検証》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点プロジェクトのテーマ検証</li> <li>・重点プロジェクトのイメージづくり</li> </ul>
第6回 《評価・見直し》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境像の確定</li> <li>・具体的な取組のアイデア出し</li> </ul>
第7回 《プロジェクトの完成》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取組の絞込み</li> <li>・重点プロジェクト作成</li> </ul>

(注)内容は各地域の特性及び進捗状況により異なるが、最終的には同じ成果を上げている。

## 4 実施日

みはらし環境塾は、次の日程で実施しました。

区分	三原地域A		三原地域B		本郷地域		久井地域		大和地域	
	平成18年(2006)	12月17日	平成18年(2006)	12月3日	平成18年(2006)	12月10日	平成18年(2006)	11月18日	平成18年(2006)	12月16日
第1回										
第2回		1月21日		1月28日		1月13日		12月23日		1月20日
第3回		2月4日		2月12日		2月10日		2月3日		2月11日
第4回		4月15日		4月14日		4月28日		4月21日		4月22日
第5回	平成19年(2007)	6月17日	平成19年(2007)	5月20日	平成19年(2007)	6月2日	平成19年(2007)	6月9日	平成19年(2007)	6月24日
第6回		7月7日		7月1日		7月22日		7月21日		7月8日
第7回		8月18日		8月4日		8月19日		8月26日		7月28日

## 5 実施状況

### (1) 三原地域A（沼田川北側）

#### ① 第1回講座

第1回講座のねらい	第1回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 塾生の親睦を図る。</li> <li>■ 地域内の環境に関わる情報について、塾生同士が学び共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域の良いところ、見直したいところ（課題など）を整理した。</li> <li>■ 次回の現地調査場所を選定した。</li> </ul>

#### 《第1回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ みはらし環境塾の概要と目的及び今後の予定の説明
- 参加者の自己紹介 ・ ・ ・ 親睦を図りながら、自己紹介とグループ分け
- ワークショップ ・ ・ ・ 3つのグループにわかれて、地域の課題や問題点の抽出と整理
- 情報共有 ・ ・ ・ ・ ・ グループごとの成果を発表し、情報共有後、調査ポイントを選定



#### ② 第2回講座

第2回講座のねらい	第2回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回で選定した調査場所を調査し、現状を把握する。</li> <li>■ 調査結果を記録し、調査結果を参加者で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 調査場所ごとの現状を記録し、「調査チェックシート（調査項目の確認表）」を完成させた。 ⇒この記録を第3回でまとめる。</li> </ul>

#### 《第2回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第1回のふりかえりと現地調査の進め方について
- 現地調査 ・ ・ ・ ・ ・ 現地調査を行い、各塾生が調査結果を調査チェックシートに記録



#### バイパス新倉（沼田川）出入口 ：新倉町木之浜

##### 《チェック項目》◆ポイ捨ての状況 ◆周囲の様子

- ・ 渋滞時にポイ捨てをするようで、ごみが散乱している。
- ・ 国道とバイパスの間の緑地帯で、掃除をするとしても危険。
- ・ 一度きれいに草刈をして、ごみを捨てにくい状況にするとよいかもかもしれない。

#### 頼兼インター付近バイパス下側道 ：頼兼一丁目

##### 《チェック項目》◆散乱ごみの状況 ◆周囲の様子

- ・ 前日に掃除が行われていてごみはないが、落書きが気になる。
- ・ 住民のいこいの場、グラウンドとして、使いやすいように整備されている。
- ・ みんなで継続的に使うと、もっとよい空間になる。



バイパス新倉（沼田川）出入口

**西野川**：西野四丁目

## 《チェック項目》◆合流地点の様子

- ・ポイ捨てごみが散乱して汚い。
- ・水量が少なく、水もあまりきれいではない。
- ・川のヘドロをとって流れをよくしたい。

**三原市水道局**：西野五丁目

## 《チェック項目》◆梅林 ◆太陽光発電設備

- ・県内初の大規模な太陽光発電施設で三原の自慢。
- ・今のままの美しい姿で維持してほしい。
- ・遠足などで利用するといい。

**恵下谷道路**：八坂町

## 《チェック項目》◆野犬の状況 ◆不法投棄の状況

- ・谷全体がごみ捨て場になっている。
- ・道路沿いに網を張るなどの、何か対策をしなければいけない。
- ・野良犬が1匹いた。

**深町（荒廃林）**：深町中組

## 《チェック項目》◆森林の状況 ◆地形と危険性

- ・土地がやせていて木が育っていない。
- ・川の水で川岸の土地の侵食が進んでいる。
- ・このままだと、誰も入ることのできない山になってしまう。

**深町松尾峠**：深町松尾

## 《チェック項目》◆不法投棄の状況

- ・監視カメラやスピーカー、フェンスが設置されていて、その効果か周辺には不法投棄はない。
- ・他のところもごみの量は少ない。
- ・監視カメラの設置は、効果がありそう。

**三原市学校林**：糸崎町中之町市有林

## 《チェック項目》◆森林の状況

- ・竹炭を作ったり、竹炭で川の浄化もしている。
- ・よく整備された山林。
- ・多くの人にこの場所を知らせたい。

**和久原川**：中之町一丁目

## 《チェック項目》◆汚水の流入状況 ◆周囲の様子

- ・汚い、ドブの臭い（悪臭）がする。
- ・水量が少なくて淀んでいる。
- ・排水処理の対策が必要。

**中之町インター付近**：館町

## 《チェック項目》◆樹木の状況 ◆交通の状況

- ・今回は清掃されており、ごみや落ち葉はなかった。
- ・朝夕の渋滞はひどい。



頼兼インター付近バイパス下側道



三原市水道局の太陽光発電施設



恵下谷



深町松尾峠



和久原川

③ 第3回講座

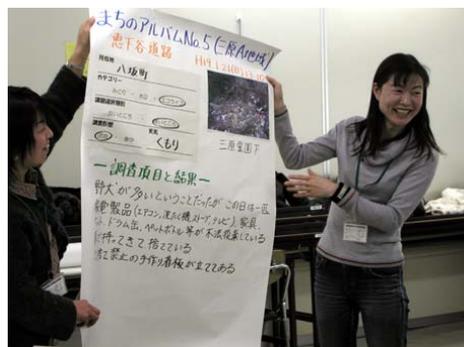
第3回講座のねらい	第3回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■第2回で調査した結果を整理し、共有する。</li> <li>■調査した場所の環境像(どのような姿にしたいか、広めたいか)を描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■調査結果を整理した「まちのアルバム」を完成させた。 ⇒このアルバムは、来年度企画する重点プロジェクトの基礎資料となる。</li> </ul>

《第3回講座のプログラム》

オリエンテーション・・・第2回のふりかえりと第3回の内容について  
 ワークショップ・・・・・・各調査場所の調査結果を整理する“「まちのアルバム」づくり”  
 情報共有・・・・・・完成した「まちのアルバム」を発表し、今年度のまとめを実施

◆ 完成した三原地域 A の「まちのアルバム」 (詳細は資料編を参照。)

- No.1 バイパス新倉(沼田川) 出入口
- No.2 頼兼インター付近バイパス下側道
- No.3 西野川
- No.4 三原市水道局
- No.5 恵下谷道路
- No.6 深町(荒廃林)
- No.7 深町松尾峠
- No.8 三原市学校林
- No.9 和久原川
- No.10 中之町インター付近



④ 第4回講座

第4回講座のねらい	第4回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトのテーマをカテゴリー別に選定する。</li> <li>■重点プロジェクトのイメージを描き共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトのテーマを選定した。</li> <li>■具体的な取組のアイデアを出した。 ⇒次回、このアイデアの検証と絞り込みを行う。</li> </ul>

《第4回講座のプログラム》

オリエンテーション ・ 第3回までのふりかえりと第4回のねらいについて  
 重点プロジェクトに盛り込む主な内容について  
 重点プロジェクトテーマの選定  
 ・ 前回までの成果、意見をふりかえりながら、カテゴリー別にテーマを選定  
 重点プロジェクトテーマのイメージづくり  
 ・ 具体的な取組のアイデア出し



⑤ 第5回講座

第5回講座のねらい	第5回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトのテーマを確定する。</li> <li>■具体的な取組の目標が絞り込まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトのテーマが決定した。</li> <li>■具体的な取組の目標が絞り込まれた。 ⇒次回、この目標実現のための具体的な取組を企画する。</li> </ul>

《第5回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 平成 19(2007)年度のねらいとスケジュールの確認
- 重点プロジェクトテーマの確定
  - ・ 前回設定したプロジェクトテーマを再確認し、検討のうえ確定
- 環境像の確定 ・ ・ ・ ・ ・ 各テーマに対する環境像をグループワークで整理し、全員協議で確定



⑥ 第6回講座

第6回講座のねらい	第6回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■目標に応じた具体的な取組項目を絞り込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■主体別に具体的な取組項目が絞り込まれた。 ⇒次回、取組のスケジュールを決定し、重点プロジェクトを完成させる。</li> </ul>

《第6回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第5回までのふりかえりと第6回のねらいについて
- 情報共有 ・ ・ ・ ・ ・ 各重点プロジェクトのテーマと環境像について確認
- 具体的な取組の絞り込み
  - ・ 各環境像に対する取組を考え、主体別に整理して絞り込んだ



⑦ 第7回講座

第7回講座のねらい	第7回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■第1回から第6回までの成果を踏まえて、重点プロジェクトを完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■3つの重点プロジェクトが完成した（名称、環境像、取組の内容、スケジュール）。</li> </ul>

《第7回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第6回までのふりかえりと第7回のねらいについて
- 具体的な取組の絞り込み
  - ・ 各プロジェクトの主体別の取組を3～5つに絞り込んだ
- 取組スケジュールの決定
  - ・ 取組の実施スケジュールを平成20(2008)年度からの5年間にあてはめて決定



(2) 三原地域 B (沼田川南側)

① 第1回講座

第1回講座のねらい	第1回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 塾生の親睦を図る。</li> <li>■ 地域内の環境に関わる情報について、塾生同士が学び共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域の良いところ、見直したいところ(課題など)を整理した。</li> <li>■ 次回の現地調査場所を選定した。</li> </ul>

《第1回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ みはらし環境塾の概要と目的及び今後の予定の説明
- 参加者の自己紹介 ・ ・ 親睦を図りながら、自己紹介とグループ分け
- ワークショップ ・ ・ ・ 3つのグループにわかれて、地域の課題や問題点の抽出と整理
- 情報共有 ・ ・ ・ ・ ・ グループごとの成果を発表し、情報共有後、調査ポイントを選定



② 第2回講座

第2回講座のねらい	第2回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回で選定した調査場所を調査し、現状を把握する。</li> <li>■ 調査結果を記録し、調査結果を参加者で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 調査場所ごとの現状を記録し、「調査チェックシート」を完成させた。 ⇒この記録を第3回でまとめる。</li> </ul>

《第2回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第1回のふりかえりと現地調査の進め方について
- 現地調査 ・ ・ ・ ・ ・ 現地調査を行い、各塾生が調査結果を調査チェックシートに記録



沼田西町(荒廃) : 沼田西町松江

- 《チェック項目》◆田の形状、農地の確認  
◆山林の荒廃の様子

- ・ 休耕田(棚田)が森林化して形状をとどめていない。
- ・ 少しずつでも手入れをしないと、このままでは田畑が消えてしまう。
- ・ 土地所有者の高齢化が進み、より荒廃が進む可能性がある。

エヒメアヤメ自生地 : 沼田西町松江

- 《チェック項目》◆自生地の保全状況  
◆管理体制

- ・ エヒメアヤメ保存会が年4回手入れをしている。
- ・ 地域の誇りになるものは、同時に地域の人たちのお世話により成り立っている。
- ・ 若い世代が管理に関わらないと継続が難しい状態。



エヒメアヤメの自生地

**ホタルの生息地（大添川）**：沼田西町惣定

## 《チェック項目》◆川の状況 ◆保護活動の様子

- 川の富栄養化のため、ホタルの餌になるカワニナが育たない。
- ホタルの保護のための地域活動が盛んである。
- ホタルの住める川にする活動を継続させたい。

**小泉町（荒廃）**：小泉町

## 《チェック項目》◆山林の手入れの状況 ◆従来の姿

- 竹林が広がっている。
- 部分的に手入れをされている所もあるが、昔の里山にはほど遠い状態。
- 農業をしたい人に土地を貸し出すことなどの検討が必要。

**沼田西町のコンビニエンスストア駐車場**

：沼田西町惣定

《チェック項目》◆アイドリングの状況  
◆周辺のポイ捨てごみ

- アイドリングしている車はほとんどない。
- コンビニエンスストアの敷地内はきれいにしているが、周辺の川や田にごみが捨てられている。
- ポイ捨てごみがなく状態にしたい。

**白滝山**：小泉町

## 《チェック項目》◆眺望 ◆周辺のポイ捨てごみ

- 360度の絶景で、桜の植樹など整備されている。
- ごみは少なく、ポール状の空き缶ステーションが設置されている。
- いつ来ても気持ちの良い場所で、現状を維持したい。

**潮越橋周辺**：沼田東町七宝⇒明神《チェック項目》◆生活排水の混入状況  
◆水の富栄養化の状況

- 生活排水とごみがたまっていて汚い、臭いもある。
- 各排水口に藻やごみがたくさんある。
- ごみのないきれいな川にしたい。

**沼田川中土手（親水空間）**：三原市宗郷《チェック項目》◆自生植物、野鳥  
◆周辺のポイ捨てごみ  
◆川全体の景観

- カモ、カモメなどの野鳥がたくさんいる。
- 市中心部に残る貴重な自然のある遊び場で、散歩をしたくなるような場所。
- このまま守っていききたい数少ない場所の一つ。

**稲荷神社周辺**：須波町⇒貝野町《チェック項目》◆溝に落ちているごみ  
◆駐車スペースの状況

- 周囲の溝には家庭ごみまで捨てられ、海沿いの鳥居の周辺にはタバコの吸殻が散乱している。
- 死角（ごみを捨てやすい環境）をなくしたい。
- 向い側の海のきれいさに負けないような、快適な休憩スペースにしたい。



沼田西町惣定でのカワニナの養殖



コンビニエンスストア周辺に捨てられたごみ



白滝山の山頂から望む瀬戸内海



潮越橋周辺



稲荷神社周辺に捨てられたごみ

③ 第3回講座

第3回講座のねらい	第3回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第2回で調査した結果を整理し、共有する。</li> <li>■ 調査した場所の環境像(どのような姿にしたいか、広めたいか)を描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 調査結果を整理した「まちのアルバム」を完成させた。 ⇒このアルバムは、来年度企画する重点プロジェクトの基礎資料となる。</li> </ul>

《第3回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第2回のふりかえりと第3回の内容について
- ワークショップ ・ ・ ・ 各調査場所の調査結果を整理する「まちのアルバム」づくり
- 情報共有 ・ ・ ・ ・ ・ 完成した「まちのアルバム」を発表し、今年度のまとめを実施

◆ 完成した三原地域Bの「まちのアルバム」 (詳細は資料編を参照。)

- No.1 沼田西町(荒廃)
- No.2 エヒメアヤメ自生地
- No.3 ホタルの生息地(大添川)
- No.4 小泉町(荒廃)
- No.5 沼田西町のコンビニエンスストア駐車場
- No.6 白滝山山頂
- No.7 潮越橋周辺
- No.8 沼田川中土手(親水空間)
- No.9 稲荷神社周辺



④ 第4回講座

第4回講座のねらい	第4回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 重点プロジェクトのテーマをカテゴリー別に選定する。</li> <li>■ 重点プロジェクトのイメージを描き共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 重点プロジェクトのテーマを選定した。</li> <li>■ 具体的な取組のアイデアを出した。 ⇒次回、このアイデアの現地検証と絞り込みを行う。</li> <li>■ 第5回のスケジュールが確定した。</li> </ul>

《第4回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第3回までのふりかえりと第4回のねらいについて  
重点プロジェクトに盛り込む主な内容について
- 重点プロジェクトのテーマの選定
  - ・ 前回までの成果、意見をふりかえりながら、カテゴリー別にテーマを選定
- 重点プロジェクトテーマのイメージづくり
  - ・ 具体的な取組のアイデア出し



⑤ 第5回講座

第5回講座のねらい	第5回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■第4回で選定した具体的な取組のアイデアを検証する。</li> <li>■重点プロジェクトのイメージを描き共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトでどのような取組が必要であるかが、ある程度絞り込まれている。 ⇒この結果をもとに、次回重点プロジェクトのイメージを固める。</li> </ul>

《第5回講座のプログラム》

オリエンテーション ・ 第4回のふりかえりと第5回のねらいについて  
 現地調査 ・ ・ ・ ・ ・ 重点プロジェクトテーマの調査、検証  
 キーワードの絞り込み 重点プロジェクトを絞り込むための  
 キーワードを選定



沼田川浄化センター : 現地にて

《検証の視点》◆河川敷の花壇 ◆利用状況

- ・ハードは整備されている。
- ・花壇がきれいに維持管理されており、花壇のオーナー（所有者）制度は良好に機能している。
- ・ウォーキングなどの利用者がある。
- ・利用できる場所だが、三原市民の認識度が低い。



沼田川浄化センター近くの河川敷

中土手 : 現地にて

《検証の視点》◆親水施設の整備状況 ◆干潟  
◆利用状況

- ・親水用の階段や護岸は整備されている。
- ・市民の手によって、土手の一部や花壇に花を植えるなどの活動が推進されている。
- ・季節によっては、水鳥の観察場所としての活用の可能性が高い。
- ・1日に一度、干潮時に川底の大部分が干潟となる。



護岸整備された中土手

防災ステーション : 現地にて

《検証の視点》◆親水拠点（憩いの場）の利用状況  
◆整備状況

- ・ハード及び植栽は整備されている。
- ・親子連れの利用者が多い。  
（魚釣り、カヌー、木登り、キャンピングカーなど）

本市（沼田川中流） : 車中

《検証の視点》◆遊び場、親水空間としての利用の可能性  
◆整備する場合の地点特性

- ・汽水\*境界から上流に砂地が多い。

小原（沼田川上流） : 車中

《検証の視点》◆遊び場、親水空間としての利用の可能性  
◆整備する場合の地点特性

- ・砂地に下りるための道がある。
- ・砂地が多い。



防災ステーション周辺

沼田西の松江新池 : 現地にて

《検証の視点》◆山の荒廃 ◆池の様子

- ・ 松枯れや岸辺の崩壊，倒木が池に沈むなどの山の荒廃が進んでいる。
- ・ 倒木が池に入ることによって，池の富栄養化が進んでいる。
- ・ 子どもたちが魚釣りに来ている。



ホタルの保護活動の記録看板

ホタルの里（大添川） : 現地にて

《検証の視点》◆ホタル保護の現状

- ・ 20 数年間のホタル保護活動の記録を示す看板がある。
- ・ ホタルの観察会が，定期的に行われている。

沼田西町惣定 : 現地にて

《検証の視点》◆山すその荒廃 ◆池の様子

- ・ 赤松の群生を見ることが出来る数少ない場所である。
- ・ ホタルの観察会が定期的に行われている。
- ・ 休耕田や山の荒廃が進み，竹が繁茂している。
- ・ 山の持ち主により，松や桜の植樹が行われている。



沼田西町惣定地域の山林の荒廃

⑥ 第6回講座

第6回講座のねらい	第6回講座の成果
<p>■第1回から第5回までの成果を踏まえて，重点プロジェクトを作成する。</p>	<p>■各カテゴリーの環境像が整理した。 ■3つの重点プロジェクトの仮称を選定した。</p>

《第6回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第5回のふりかえりと第6回のねらいについて
- 環境像の確定 ・ ・ ・ 各テーマに対する環境像をグループワークで整理し，全員協議で確定
- 重点プロジェクトのテーマの選定
  - ・ 前回までの成果，意見をふりかえりながら，カテゴリー別にテーマを選定
- (仮)プロジェクトの選定
  - ・ 全員協議で3つの(仮)プロジェクト名を選定



⑦ 第7回講座

第7回講座のねらい	第7回講座の成果
<p>■第1回から第6回までの成果を踏まえて，重点プロジェクトを完成させる。</p>	<p>■3つの重点プロジェクトが完成した(名称，環境像，取組内容)。</p>

《第7回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第4回から第6回までの成果のふりかえりと第7回のねらいについて
- 重点プロジェクトの取組の検討・決定
  - ・ 環境像をイメージ(想像)しながら各プロジェクトの取組を決定
- 取組スケジュールの決定
  - ・ 取組の実施スケジュールを平成20(2008)年度からの5年間にあてはめて決定



(3) 本郷地域

① 第1回講座

第1回講座のねらい	第1回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 塾生の親睦を図る。</li> <li>■ 地域内の環境に関わる情報について、塾生同士が学び共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域の良いところ、見直したいところ（課題など）を整理した。</li> <li>■ 次回の現地調査場所を選定した。</li> </ul>

《第1回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ みはらし環境塾の概要と目的及び今後の予定の説明
- 参加者の自己紹介 ・ ・ ・ 親睦を図りながら、自己紹介とグループ分け
- ワークショップ ・ ・ ・ 2つのグループにわかれて、地域の課題や問題点の抽出と整理
- 情報共有 ・ ・ ・ ・ ・ グループごとの成果を発表し、情報共有後、調査ポイントを選定



② 第2回講座

第2回講座のねらい	第2回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回で選定した調査場所を調査し、現状を把握する。</li> <li>■ 調査結果を記録し、調査結果を参加者で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 調査場所ごとの現状を記録し、「調査チェックシート」を完成させた。 ⇒この記録を第3回でまとめる。</li> </ul>

《第2回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第1回のふりかえりと現地調査の進め方について
- 現地調査 ・ ・ ・ ・ ・ 現地調査を行い、各塾生が調査結果を調査チェックシートに記録



梨和川 ：本郷町下北方

《チェック項目》◆川の汚れ具合

- ・ 交通量が少なく、付近に駐車した車が食事後のごみをポイ捨てしているように見受けられる。
- ・ 捨てにくい状況にすることが必要。
- ・ 夏は悪臭被害が想像される。

一楽池ふれあいの里 ：本郷町南方松原一楽

《チェック項目》◆水が浄化されている様子  
◆里山の整備状況 ◆運営方法

- ・ 水がとてもきれい。
- ・ せっかく良いところなのに、あまり知られていない。
- ・ 春、秋に自然を楽しみに来たい場所。



一楽池ふれあいの里

**山城跡（梨羽城跡）**：本郷町上北方中筋

## 《チェック項目》◆史跡の確認

## ◆観光ボランティアの案内状況

- ・一度は登ってみたい場所であり、登った人はそこで何かを感じてもらいたい。
- ・桜や紅葉の季節に訪れたい場所。
- ・登山道がコンクリートで整備されているが、“万里の長城”のようで景観にそぐわない。



山城跡（梨羽城跡）を臨む

**畑地区（森林荒廃）**：本郷町上北方畑

## 《チェック項目》◆枯れた松林の状況

## ◆崩壊の危険性

- ・予想以上に松枯れが進んでいる。
- ・昔のようにマツタケが生えるようにしたいが、枯れた松が倒れる危険性もあり手入れもできない状況。
- ・一番になんらかの手をかけてほしい場所。



広島空港の展望台

**展望台（広島空港）**：本郷町上北方用倉

## 《チェック項目》◆フライトロードの橋梁

## ◆広島空港周辺

- ・全体にまとまりがあり、きれいに整備されていて気持ちが良い、子どもを連れてきてもよい所。
- ・設備や施設は申し分ないが、活用方を工夫しないとつまらない。
- ・遊べて、買い物ができる、温泉にも入ってゆっくりできるような場所にしたい。



三景園

**沼田川（上流）**：本郷町船木

## 《チェック項目》◆水質の確認 ◆地形と安全性

- ・上流は水もとてもきれいで美しい。
- ・鮎の棲む川を維持したい。
- ・下流のように手を加えず、遊ぶことのできる場所になるとよい。

**本郷橋付近**：本郷町下北方

## 《チェック項目》◆本郷橋周辺の整備状況

## ◆水質の状況 ◆安全性

- ・砂の堆積が多く、土手には草などが生い茂っており、川辺に下りる道も整備されていない。
- ・河川敷を一部整備して遊歩道をつけるなど、川に近づきやすい工夫をするとよい。
- ・水は上流と同じようにきれいなままで維持したい。



本郷橋付近

③ 第3回講座

第3回講座のねらい	第3回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■第2回で調査した結果を整理し、共有する。</li> <li>■調査した場所の環境像（どのような姿にしたいか、広めたいか）を描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■調査結果を整理した「まちのアルバム」を完成させる。</li> <li>⇒このアルバムは、来年度企画する重点プロジェクトの基礎資料となる。</li> </ul>

《第3回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第2回のふりかえりと第3回の内容について
- ワークショップ ・ ・ ・ 各調査場所の調査結果を整理する「まちのアルバム」づくり
- 情報共有 ・ ・ ・ ・ ・ 完成した「まちのアルバム」を発表し、今年度のまとめを実施

◆ 完成した本郷地域の「まちのアルバム」 （詳細は資料編を参照。）

- No.1 梨和川
- No.2 一楽池ふれあいの里
- No.3 山城跡（梨羽城跡）
- No.4 畑地区（森林荒廃）
- No.5 展望台（広島空港）
- No.6 沼田川（上流）
- No.7 本郷橋付近



④ 第4回講座

第4回講座のねらい	第4回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトのテーマをカテゴリー別に選定する。</li> <li>■重点プロジェクトのイメージを描き共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトのテーマ(案)を選定した。</li> <li>■具体的な取組のアイデアを出した。</li> <li>⇒次回、テーマ(案)とアイデアを再度検証する。</li> </ul>

《第4回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第3回までのふりかえりと第4回のねらいについて  
重点プロジェクトに盛り込む主な内容について
- 重点プロジェクトのテーマの選定
  - ・ 前回までの成果、意見をふりかえりながら、カテゴリー別にテーマを選定
- 重点プロジェクトテーマのイメージづくり
  - ・ 具体的な取組のアイデア出し



## ⑤ 第5回講座

第5回講座のねらい	第5回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトのテーマをカテゴリー別に選定する。</li> <li>■重点プロジェクトのイメージを描き共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトのテーマを確定した。</li> <li>■具体的な取組のアイデアを出した。 ⇒次回、テーマに対する理想像と具体的な取組を検討する。</li> </ul>

## 《第5回講座のプログラム》

オリエンテーション ・ 平成19(2007)年度のねらいとスケジュールの確認  
重点プロジェクトに盛り込む主な内容について

重点プロジェクトテーマの確定

- ・ 前回選定したプロジェクトテーマ(案)に加えたい“キーワード”を抽出, 原案とすり合わせた後テーマを確定

重点プロジェクトテーマのイメージづくり

- ・ 具体的な取組のアイデア出し



## ⑥ 第6回講座

第6回講座のねらい	第6回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■具体的な取組の目標に応じた項目を絞り込む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■主体別に具体的な取組項目が絞り込まれた。 ⇒次回、取組のスケジュールを決定し、重点プロジェクトを完成させる</li> </ul>

## 《第6回講座のプログラム》

オリエンテーション ・ 第5回までのふりかえりと第6回のねらいについて

環境像の確定 ・ ・ ・ ・ 各テーマに対する環境像をグループワークで整理し, 全員協議で確定

具体的な取組の絞り込み

- ・ 各理想の姿に対する取組を考え, 主体別に整理して絞り込んだ



## ⑦ 第7回講座

第7回講座のねらい	第7回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■第1回から第6回までの成果を踏まえて, 重点プロジェクトを完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■3つの重点プロジェクトが完成した(名称, 環境像, 取組の内容, スケジュール)。</li> </ul>

## 《第7回講座のプログラム》

オリエンテーション ・ 第6回までのふりかえりと第7回のねらいについて

具体的な取組の絞り込み

- ・ 各プロジェクトの主体別の取組を3~5つに絞り込んだ

取組スケジュールの決定

- ・ 取組の実施スケジュールを平成20(2008)年度からの5年間にあてはめて決定



(4) 久井地域

① 第1回講座

第1回講座のねらい	第1回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■塾生の親睦を図る。</li> <li>■地域内の環境に関わる情報について、塾生同士が学び共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域の良いところ、見直したいところ（課題など）を整理した。</li> <li>■次回の現地調査場所を選定した。</li> </ul>

《第1回講座のプログラム》

オリエンテーション	みはらし環境塾の概要と目的及び今後の予定の説明
参加者の自己紹介	親睦を図りながら、自己紹介とグループ分け
ワークショップ	4つのグループにわかれて、地域の課題や問題点の抽出と整理
情報共有	グループごとの成果を発表し、情報共有後、調査ポイントを選定



② 第2回講座

第2回講座のねらい	第2回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■第1回で選定した調査場所を調査し、現状を把握する。</li> <li>■調査結果を記録し、調査結果を参加者で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■調査場所ごとの現状を記録し、「調査チェックシート」を完成させた。</li> <li>⇒この記録を第3回でまとめる。</li> </ul>

《第2回講座のプログラム》

オリエンテーション	第1回のふりかえりと現地調査の進め方について
現地調査	現地調査を行い、各塾生が調査結果を調査チェックシートに記録



**葉牡丹畑**：久井町<sup>わそ</sup>和草（村上商店前）

《チェック項目》◆花の様子 ◆管理体制  
◆葉牡丹畑周辺の様子

- きれいに管理、整備されていて気持ちがいい。
- 住民の自主的な努力で継続されている。地区のまとまりがよい。
- 久井町内にこのような場所がふえればよい。

**落合橋周辺**：久井町坂井原落合

《チェック項目》◆景観の様子 ◆溪谷の様子

- 溪谷の流れは見ていて気持ちがいいし、四季を通じてきれいな場所。しかしごみがたくさんポイ捨てされている。
- ごみを片付けて、清流と景観を維持したい。
- この溪谷で子どもたちが泳いだり、魚をとって遊ぶ姿をみたい。

**久井の玄関口**：久井町八幡町<sup>かいら</sup>垣内

《チェック項目》◆竹林の様子 ◆木の様子

- 駐車スペースにごみが放ってある。
- 遠目でみれば景観はすばらしく大好きな場所なのに、周辺にごみが散乱している。
- 竹林の整備やごみをなくして、久井の玄関口として“きれい！”と思ってもらえるようにしたい。



八幡町垣内の駐車スペース

**山陽自動車道沿いの駐車スペース：久井町坂井原上組**

《チェック項目》◆ポイ捨てごみの種類、量  
◆駐車スペースの様子

- ・人目につかない場所のため、ポイ捨てが多い。
- ・ポイ捨てというより、不法投棄が多数ある。
- ・一度ごみをとってきれいにし、注意を促す看板を設置するなど、不法投棄を増やさない工夫が必要。



山陽自動車道沿いの駐車スペース

**中野ぶどう園周辺：久井町山中野**

《チェック項目》◆不法投棄物の種類、量  
◆ポイ捨てごみの種類、量  
◆周辺への環境影響

- ・人目につかない山の中にごみが捨てられている。
- ・車の通りの少ない山道に、家具や電気製品をわざわざ捨ててきているようだ。
- ・地域の環境に影響を及ぼすことが懸念される。



山中に捨てられていた不法投棄ごみ

**三河ダム：久井町小林**

《チェック項目》◆ポイ捨てごみの種類、量  
◆側溝の様子

- ・釣り客のごみや流入ごみがある。
- ・ダム周辺は、地域の人の清掃活動のおかげで思っていたよりもきれいだった。
- ・桜の植樹が行われていて、これからが楽しみ。



江木地区（御調川の上流）

**江木地区（御調川の上流）：久井町江木**

《チェック項目》◆川の汚れ具合、原因  
◆川沿いのごみの様子

- ・御調川の上流であるが、水が汚れている。
- ・生活排水が多く流入しているため、川底にヘドロになってたまっている。
- ・裸祭りもあるし、下流に汚れを流さず、昔のように、住民が安心して遊べる川にしたい。

**助原：久井町助原**

《チェック項目》◆イノシシよけ対策の現状  
◆集落の環境状況

- ・イノシシよけが地域全体を囲っている。
- ・農産物があらされており、身近な問題として捉える必要あり。
- ・イノシシが里へ下りてこなくてもよいような、山の環境づくりが必要。

**岩海・宇根山：久井町吉田**

《チェック項目》◆研修棟周辺の状況  
◆岩海、宇根山の状況

- ・日本一の岩海にしては、ひとけも少なくちょっとさびしい。
- ・以前よりは整備されているが、広いので手入れが行き届きにくいようだ。
- ・宇根山は芦田川の源流にふさわしい整備が必要。



岩海・宇根山

③ 第3回講座

第3回講座のねらい	第3回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■第2回で調査した結果を整理し、共有する。</li> <li>■調査した場所の環境像（どのような姿にしたいか、広めたいか）を描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■調査結果を整理した「まちのアルバム」を完成させた。</li> <li>⇒このアルバムは、来年度企画する重点プロジェクトの基礎資料となる。</li> </ul>

《第3回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第2回のふりかえりと第3回の内容について
- ワークショップ ・ ・ ・ 各調査場所の調査結果を整理する“「まちのアルバム」づくり”
- 情報共有 ・ ・ ・ ・ ・ 完成した「まちのアルバム」を発表し、今年度のまとめを実施

◆ 完成した久井地域の「まちのアルバム」 (詳細は資料編を参照。)

- No.1 葉牡丹畑
- No.2 落合橋周辺
- No.3 久井の玄関口
- No.4 山陽自動車道沿いの駐車スペース
- No.5 中野ぶどう園周辺
- No.6 <sup>みごう</sup>三河ダム
- No.7 江木地区(御調川の上流)
- No.8 <sup>あさつばら</sup>筋原
- No.9 岩海・宇根山



④ 第4回講座

第4回講座のねらい	第4回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトのテーマをカテゴリー別に選定する。</li> <li>■重点プロジェクトのイメージを描き共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトのテーマを選定した。</li> <li>■具体的な取組のアイデアを出した。 ⇒次回、このアイデアの現地検証と絞り込みを行う。</li> <li>■第5回のスケジュールが確定した。</li> </ul>

《第4回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第3回までのふりかえりと第4回のねらいについて  
重点プロジェクトに盛り込む主な内容について
- 重点プロジェクトのテーマの選定
  - ・ 前回までの成果、意見をふりかえりながら、カテゴリー別にテーマを選定
- 重点プロジェクトテーマのイメージづくり
  - ・ 具体的な取組のアイデア出し



⑤ 第5回講座

第5回講座のねらい	第5回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■第4回で選定したテーマから得た具体的な取組のアイデアを検証する。</li> <li>■重点プロジェクトのイメージを描き共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトでどのような取組が必要であるかが、ある程度絞り込まれている。 ⇒この結果をもとに、次回重点プロジェクトのイメージを固める。</li> </ul>

《第5回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第4回のふりかえりと第5回のねらいについて
- 現地調査 ・ ・ ・ ・ ・ 重点プロジェクトテーマの調査、検証
- キーワードの絞り込み ・ 重点プロジェクトを絞り込むためのキーワードを選定



**吉田大池** : 現地にて

《検証の視点》◆憩いの場所としての利用の可能性

- ・高台にありロケーションがよく、岩海などと連携した空間利用が考えられる。
- ・岸辺などのハード整備が行われた形跡があるが、池の周回道路は木が生い茂り、通行不能になっている。
- ・上流に人家などが無いにも関わらず、水が淀み汚れている。
- ・釣り客のものと思われるごみが放置されている。



吉田大池

**牛山自然公園** : 現地にて

《検証の視点》◆公園の整備状況

- ・地域の人たち（個人・団体）が、桜の植樹・草刈りやベンチを設置するなどの整備を行っている。
- ・アクセス道が狭く、駐車場がない。
- ・桜の名所となっており、花の季節には利用者が多い。



牛山自然公園

**御調川の水辺教室実施場所** : 現地にて

《検証の視点》◆親水拠点（体験）の利用状況

- ・川岸の砂地を利用して、川に下りることができる。
- ・田畑の中を流れており、地域の中での川の役割を知ることできる。
- ・農薬や除草剤などによる水の汚れがみられる。



三河ダム

**三河ダム** : 現地にて

《検証の視点》◆親水空間・憩いの場としての利用の可能性

- ・ハード面の整備は終わっており、憩いの場所として利用できるスペースもある。
- ・植樹された桜が草にうもれており、草刈りなどの育樹活動が必要である。

⑥ 第6回講座

第6回講座のねらい	第6回講座の成果
■第1回から第5回までの成果を踏まえて、重点プロジェクトを作成する。	■各カテゴリーの環境像が整理した。 ■3つの重点プロジェクトの仮称を選定した。

《第6回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第5回のふりかえりと第6回のねらいについて
- 環境像の確定 ・ ・ ・ 各テーマに対する環境像をグループワークで整理し、全員協議で確定
- 重点プロジェクトのテーマの設定
  - ・ 前回までの成果、意見をふりかえりながら、カテゴリー別にテーマを選定
- (仮)プロジェクトの選定
  - ・ 全員協議で3つの(仮)プロジェクト名を選定



⑦ 第7回講座

第7回講座のねらい	第7回講座の成果
■第1回から第6回までの成果を踏まえて、重点プロジェクトを完成する。	■3つの重点プロジェクトが完成した(名称, 環境像, 取組内容)。

《第7回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第4回から第6回まで成果のふりかえりと第7回のねらいについて
- 重点プロジェクトの取組の検討、決定
  - ・ ・ ・ 環境像をイメージしながら各プロジェクトの取組を決定
- 取組スケジュールの決定
  - ・ ・ ・ 取組の実施スケジュールを平成20(2008)年度からの5年間にあてはめて決定



(5) 大和地域

① 第1回講座

第1回講座のねらい	第1回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 塾生の親睦を図る。</li> <li>■ 地域内の環境に関わる情報について、塾生同士が学び共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域の良いところ、見直したいところ（課題など）を整理した。</li> <li>■ 次回の現地調査場所を選定した。</li> </ul>

《第1回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ みはらし環境塾の概要と目的及び今後の予定の説明
- 参加者の自己紹介 ・ ・ 親睦を図りながら、自己紹介とグループ分け
- ワークショップ ・ ・ ・ 3つのグループにわかれて、地域の課題や問題点の抽出と整理
- 情報共有 ・ ・ ・ ・ ・ グループごとの成果を発表し、情報共有後、調査ポイントを選定



② 第2回講座

第2回講座のねらい	第2回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第1回で選定した調査場所を調査し、現状を把握する。</li> <li>■ 調査結果を記録し、調査結果を参加者で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 調査場所ごとの現状を記録し、「調査チェックシート」を完成させた。 ⇒この記録を第3回でまとめる。</li> </ul>

《第2回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第1回のふりかえりと現地調査の進め方について
- 現地調査 ・ ・ ・ ・ ・ 現地調査を行い、各塾生が調査結果を調査チェックシートに記録



棕梨上（雨水タンク）：大和町棕梨上

《チェック項目》◆雨水タンクの構造、利用方法  
◆成果（良かったこと、困ったこと）

- ・ 無駄になりがちな雨水をうまく利用している。
- ・ 節水にもなり、畑にも利用できるところがよい。
- ・ 一人でも多くの人に、このような水の再利用の輪を広めたい。



手作りの雨水タンク

**芦田川源流** : 大和町蔵宗

- 《チェック項目》◆清水の湧き具合  
◆周辺の樹木の育成、整備状況  
◆環境を保持するための問題点

- ・以前はこんこんと清水が湧き出していたが、今は水量が少ない。
- ・周囲の木が伐採されており、保水力のある木の植樹と管理が必要。
- ・大和町の宝として源流にふさわしい整備をしたい。



芦田川の源流のひとつ

**ヒョウモンモドキ生息地** : 大和町上徳良

- 《チェック項目》◆里地里山を復活した風景  
◆ヒョウモンモドキの生息条件

- ・昔の田、水路、里山の下草刈りなどが復活しており、近くにヒョウモンモドキの生息地が点在している。
- ・“乱獲しない”“守ろう”という意識を育てることが、里地里山の保全や自然保護につながる。
- ・ヒョウモンモドキが飛び交う大和町にしたい。



ヒョウモンモドキ生息地

**下徳良（徳良川）** : 大和町下徳良安田

- 《チェック項目》◆川の汚染状況 ◆上流の状況  
◆周辺の散乱ごみの状況

- ・悪臭はしないが、川底にヘドロが堆積している。
- ・家庭から生活排水を出す段階でもっと浄化が必要。
- ・きれいで安全、安心な水を確保していきたい。



下徳良（徳良川）

**白竜湖** : 大和町和木

- 《チェック項目》◆ポイ捨てごみの種類、量  
◆湖の中の様子

- ・ポイ捨てごみよりも、家庭からの持ち込みごみや上流からの流入ごみが気になる。
- ・水はきれいに見えるが、川底にはヘドロがある。
- ・浄化装置が設置されており、水質改善への努力がみられる。



白竜湖

**J A和木支店の裏山** : 大和町和木⇒椋梨

- 《チェック項目》◆里道の消滅状況  
◆里山の樹木の状況

- ・よい林道なので倒木などを整理し、地元で活用したい。
- ・今のままでは山火事が心配。
- ・手入れをする日を決めて、緑豊かな里山に戻したい。



J A和木支店の裏山

**大具川** : 大和町椋梨

- 《チェック項目》◆魚の棲める川の要件  
◆ホタルの棲める川の要件

- ・川が三面コンクリート張りに改修されつつある。
- ・川の安全性が確保されている場所では、必要以上の整備はしないほうがよい。
- ・昔のようにたくさんのホタルや魚の棲む川にしたい。

③ 第3回講座

第3回講座のねらい	第3回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 第2回で調査した結果を整理し、共有する。</li> <li>■ 調査した場所の環境像（どのような姿にしたいか、広めたいか）を描く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 調査結果を整理した「まちのアルバム」を完成させた。 ⇒このアルバムは、来年度企画する重点プロジェクトの基礎資料となる。</li> </ul>

《第3回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第2回のふりかえりと第3回の内容について
- ワークショップ ・ ・ ・ 各調査場所の調査結果を整理する「まちのアルバム」づくり
- 情報共有 ・ ・ ・ ・ ・ 完成した「まちのアルバム」を発表し、今年度のまとめを実施

◆ 完成した大和地域の「まちのアルバム」 （詳細は資料編を参照。）

- No.1 棕梨上（雨水タンク）
- No.2 芦田川源流
- No.3 ヒョウモンモドキ生息地
- No.4 下徳良（徳良川）
- No.5 白竜湖
- No.6 JA和木支店の裏山
- No.7 大具川



④ 第4回講座

第4回講座のねらい	第4回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 重点プロジェクトのテーマをカテゴリー別に選定する。</li> <li>■ 重点プロジェクトのイメージを描き共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 重点プロジェクトのテーマを選定した。</li> <li>■ 具体的な取組のアイデアを出した。 ⇒次回、このアイデアの現地検証と絞り込みを行う。</li> <li>■ 第5回のスケジュールが確定した。</li> </ul>

《第4回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第3回までのふりかえりと第4回のねらいについて  
重点プロジェクトに盛り込む主な内容について
- 重点プロジェクトのテーマの設定
  - ・ 前回までの成果、意見をふりかえりながら、カテゴリー別にテーマを選定
- 重点プロジェクトテーマのイメージづくり
  - ・ 具体的な取組のアイデア出し



⑤ 第5回講座

第5回講座のねらい	第5回講座の成果
<ul style="list-style-type: none"> <li>■第4回で選定したテーマから得た具体的な取組のアイデアを検証する。</li> <li>■重点プロジェクトのイメージを描き共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■重点プロジェクトでどのような取組が必要であるかが、ある程度絞り込まれている。 ⇒この結果をもとに、次回重点プロジェクトのイメージを固める。</li> </ul>

《第5回講座のプログラム》

オリエンテーション ・ 第4回のふりかえりと第5回のねらいについて  
 現地調査 ・ ・ ・ ・ ・ 重点プロジェクトテーマの調査、検証  
 キーワードの絞り込み 重点プロジェクトを絞り込むためのキーワードを選定



椋梨川上流 : 現地にて

《検証の視点》◆水資源の状況にて ◆利用の可能性

- ・河岸整備が行われていない場所では、木が川面を覆っており、周回道路もほぼ通行できない状態である。
- ・不法投棄禁止の看板があり、ごみ投棄もあるようだ（調査時は雨天増水のため確認できず）。
- ・下水道の整備が行われていないため、川に家庭排水が流入し、堰堤を設けている場所は水が淀んでいる。



椋梨川上流での調査

白竜湖湖畔 : 現地にて

《検証の視点》◆上流からのごみの流入状況

- ・（雨で増水した）上流からごみが流入している。
- ・流入ごみだけでなく、釣り客の捨てる弁当袋などのごみも多い。



白竜湖湖畔

和木王子原 : 現地にて

《検証の視点》◆自然保護の状況

- ・道沿いに『野鳥の森』の案内看板があり、20年くらい前までは、企業が森林整備も兼ねて“巣箱コンテスト”などの活動を行っていた。
- ・コンテスト実施当時は、学校と一体となって野鳥保護の活動を行っていたが、現在は手入れされておらず、巣箱やベンチも朽ち、草や木で覆われて、山すそに入りにくい状況になっている。
- ・ホタルは棲息しているようだ。



和木王子原

棲真寺 : 現地にて

《検証の視点》◆自然の保護状況

- ・自然を観光という観点で活かしながら、カイドウ、ショウブなどの自生の植物を増やし、手入れしている。
- ・昔は尼寺で、その後しばらく寺を継ぐ者がいなかったが、現在は通いの住職がおり、寺を管理している。
- ・花の季節には観光客が多く、大和町民には有名な場所だが、他の地域の人にはあまり知られていない。

上徳良 : 現地にて

《検証の視点》◆ヒョウモンモドキの保護の状況

- ・無農薬で田をつくり、ため池をつくって水を供給するなど、昔ながらの農作業による環境の維持に努めている。
- ・田にはドジョウ、タニシ、オタマジャクシなどがたくさん育ち、里地里山が再生されている。
- ・毎年、「ヒョウモンモドキ保護の会」が中心となって、草刈や観察会を行うなど保護活動を行っているが、人手がかかる。



ヒョウモンモドキ

大具川 : 現地にて

《検証の視点》◆ホタル保護施設の整備状況

- ・「椋鳥ふれあいの会」が結成され、約20世帯50人が“ホタルの里 飼育施設場”を整備中である。
- ・学校といっしょになって保護活動を行っている。
- ・活動の主催者は、椋梨川でのホタルが、地域全体の水質保護のきっかけになることを希望している。



大具川に整備されたホタル保護施設

⑥ 第6回講座

第6回講座のねらい	第6回講座の成果
<p>■第1回から第5回までの成果を踏まえて、重点プロジェクトを作成する。</p>	<p>■各カテゴリーの環境像が整理した。 ■3つの重点プロジェクトの仮称を選定した。</p>

《第6回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第5回のふりかえりと第6回のねらいについて
- 環境像の確定 ・ ・ ・ 各テーマに対する環境像をグループワークで整理し、全員協議で確定
- 重点プロジェクトのテーマの設定
- ・ 前回までの成果、意見をふりかえりながら、カテゴリー別にテーマを選定
- (仮)プロジェクトの選定
- ・ 全員協議で、3つの(仮)プロジェクト名を選定



⑦ 第7回講座

第7回講座のねらい	第7回講座の成果
<p>■第1回から第6回までの成果を踏まえて、重点プロジェクトを完成する。</p>	<p>■3つの重点プロジェクトが完成した(名称、環境像、取組内容)</p>

《第7回講座のプログラム》

- オリエンテーション ・ 第4回から第6回まで成果のふりかえりと第7回のねらいについて
- 重点プロジェクトの取組の検討、決定
- ・ 環境像をイメージしながら各プロジェクトの取組を決定
- 取組スケジュールの決定
- ・ 取組の実施スケジュールを平成20(2008)年度からの5年間にあてはめて決定



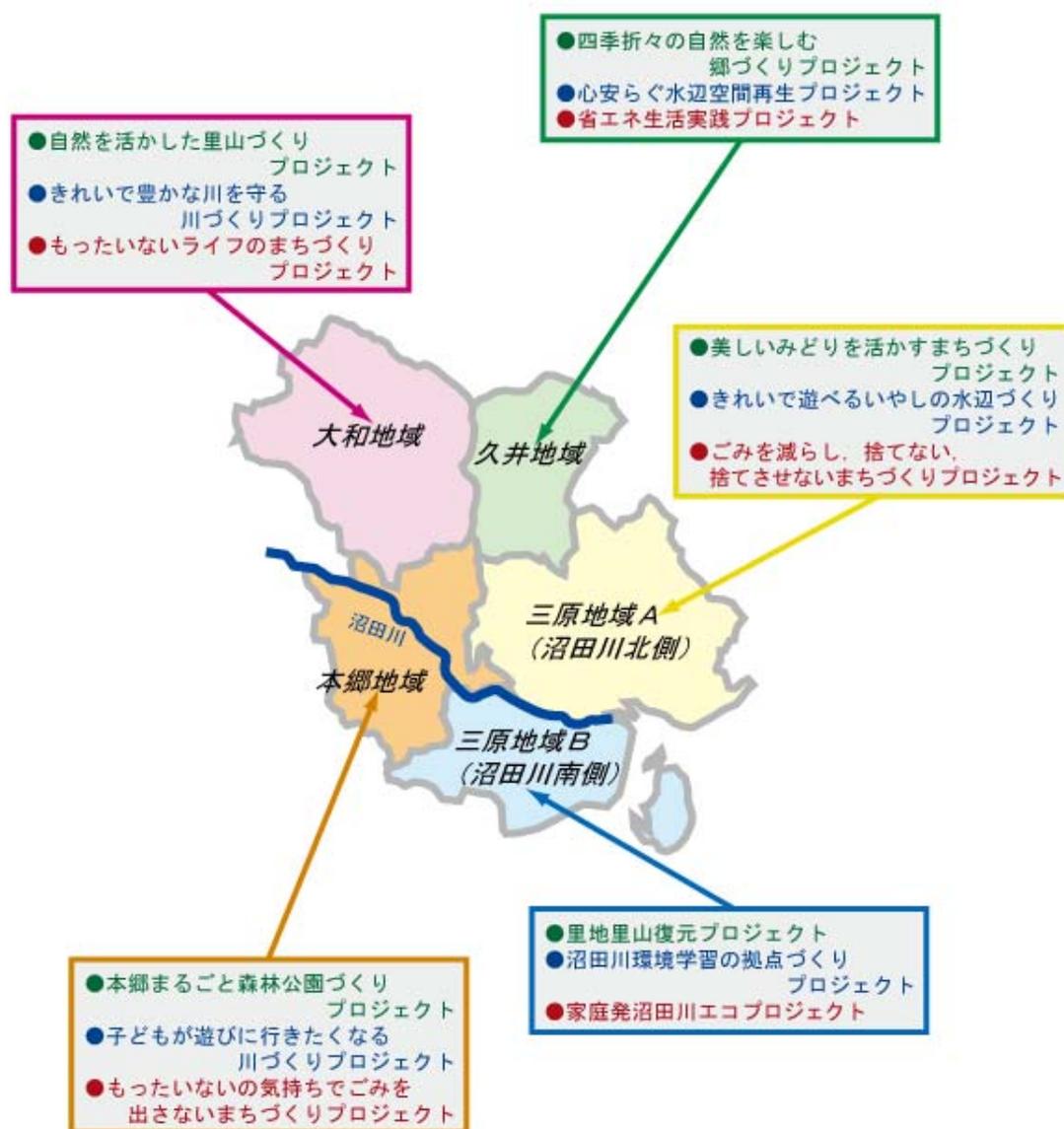
## 6 環境保全重点プロジェクト

環境保全のための重点プロジェクトは、市民（みはらし環境塾の塾生）が各環境施策を促進させる手段のひとつとしてまとめたもので、5地域で次の15プロジェクトを完成させました。

また、重点プロジェクトの作成にあたっては、それぞれの地域の課題や問題を把握した後に、市民の主体性を尊重し「市民でできる取組」、「5年くらいで成果を上げる」などの要件でテーマを絞り込み、どのような姿にしたいか（環境像）を描いた上で具体的な取組を考えました。

なお、三原市環境基本計画の成長を見据え、より実現可能なものとさせるために、重点プロジェクトのスケジュールを5年とします。

次のとおり、重点プロジェクトの一覧表を掲載します。



## 三原地域 A

### 《みはらし環境塾で考えた重点プロジェクト一覧》

: 協議または実践開始年度  


 : 協議または実践期間

プロジェクト名	環境像	平成20 (2008)年度	平成21 (2009)年度	平成22 (2010)年度	平成23 (2011)年度	平成24 (2012)年度	主体		
美つらみちを大切に プロジェクト	○地域性を活かした「緑」の取組をしている ○市内中の学校が学校林を活用している ○お店に三原産の野菜、米がもっと多く出回っている	①家庭で鉢や庭の空地に緑を育てる					市民(個人)		
		②地元の野菜を選んで買う							
		③学校林の整備, 維持活動に参加する							
				①三原で作った野菜のPR(クチコミ)を行う					地域ぐるみ
				②遊休地を活用する(花・野菜を植える)					
				③野鳥, 植物などの観察会や竹細工教室などを開催する					
				①学校林, 遊休地に関する情報の収集と紹介(発信)					行政
②行事に関わる人材派遣などの支援									
水辺で遊ぶ楽しさを プロジェクト	○川で子どもたちが遊ぶ姿が多くみられる ○三原の魚をおいしく食べられる ○水辺で人が憩いの時間を過ごしている	①学習会(勉強会)に参加する(環境, 生活排水, 洗剤など)					市民(個人)		
		②環境にやさしい洗剤, シャンプーなどを使う。風呂水は洗濯に使い, 排水を少なくする							
		③清掃活動にボランティア参加する(溝掃除, 川掃除)							
				①水辺の改善に関わる学習会を開催する					地域ぐるみ
				②ボランティア活動を推進する					
				③岸辺の安全点検・啓発を実施する					
				①学習への支援を行う(講師の派遣, 資料提供, 生活環境委員の現地指導)					行政
②環境検査の結果を広く伝える									
③水辺, 岸辺の整備をする									
ごみを減らす, 捨てる, 捨つたものを プロジェクト	○ごみの分別, リサイクル, 減量がPRなどによって徹底されている ○マイバッグ持参率100%	①学習会やボランティア活動に参加する					市民(個人)		
		②ごみ減量を実践する(過剰包装を断る, 生ごみを減らす)							
		③マイバッグ, マイ箸を持参する							
				①学習会や清掃活動を企画・実施する					地域ぐるみ
				②マイバッグのコンテストを企画・実施する(デザイン, 使いやすさを競う)					
				③古紙・アルミ缶の一時保管場所を設置する					
				①新聞・雑誌・ダンボール・紙の回収を奨励, 啓発する					行政
②ポイ捨て禁止条例を施行する									
③ごみ袋を市の指定袋にする(レジ袋を使用させない=レジ袋の削減)									
		④エコフェスタを実施する							

## 三原地域B

### 《みはらし環境塾で考えた重点プロジェクト一覧》

: 協議または実践開始年度  


 : 協議または実践期間

プロジェクト名	環境像	平成20 (2008)年度	平成21 (2009)年度	平成22 (2010)年度	平成23 (2011)年度	平成24 (2012)年度	主体		
里地里山復元プロジェクト	○里地里山周辺の休耕地が有効利用できている ○市民が入りやすい山になっている	①山を守るために竹林を市民に開放する						市民(個人)	
			②所有の山の特徴を把握する						
				③休耕地の特性を活かした植物の栽培や放牧を進める					
			①里地里山復元のための学習会を開催する(調査→整理→人材育成)						地域ぐるみ
			②休耕地のバンク制度を導入し、誰もが休耕地を利用できるようにする						
			③間伐材の活用塾を開催する						
			①里地里山復元のための人材バンクを設立する						行政
	②各取組のPR・支援を行う								
沼田川環境学習の拠点づくりプロジェクト	○川に入って安心して遊べ、市民に親しまれている	①沼田川流域で行われるイベントなどに参加する						市民(個人)	
		②沼田川沿いに花壇を設ける							
		①沼田川流域の川に親しむためのマップをつくる(生物、遊び)						地域ぐるみ	
		②川遊びの達人養成講座を開催する							
		③沼田川流域を「まるごと環境館」にする							
			①駐車場の整備を促進する						行政
		②各取組のPR・支援を行う(写生大会、写真コンテストを含む)							
家庭発沼田川エコプロジェクト	○各家庭で生活排水の出し方が意識されている ○沼田川河口にアサリ、ハマグリがすめる環境になっている ○川が定期的に清掃されておりきれいになっている	①廃油を下水に流さない						市民(個人)	
		②食べ残しをなくす							
		③ごみを拾いながら散歩をする							
		①クリーンデーを設置し、市民が家のまわりを一斉清掃する						地域ぐるみ	
		②家庭排水の状況を調査し、水質改善につなげる(モデル地区→全域へ)							
		③沼田川全域でいかだクリーンキャンペーンを実施する							
		①合併浄化槽の普及・促進を行う						行政	
		②定期的な水質調査の結果をわかりやすく公表する							
		③各家庭からの廃油を回収し、有効利用する							
④各取組のPR・支援を行う									

本郷地域

《みはらし環境塾で考えた重点プロジェクト一覧》

: 協議または実践開始年度  


 : 協議または実践期間

プロジェクト名	環境像	平成20 (2008)年度	平成21 (2009)年度	平成22 (2010)年度	平成23 (2011)年度	平成24 (2012)年度	主体	
本郷まるごと森林公園つくりプロジェクト	○城跡にまつわる学習や花見ができる ○竹林や枯れた松がなく松の木が目立つ山になっている ○道路や家に花が植えられ休耕田が活用されている	①私道を中心とした花・樹木類の植栽を行う					市民(個人)	
		②休耕田を利用し、花でいっぱいにする(春:リガ,夏:ハマリ,秋:コスモ)						
		①間伐材を利用し、城跡の案内板を設置する					地域(こみ)	
		②小早川家・毛利家・吉川家に関する山城サミットを定期的に実施する						
		③歴史・自然の案内ボランティアを育成する						
			④河川敷や傾斜地を整備し、シバザクラを植える					行政
		①竹林と松枯れたマツを伐採する(地域と連携、森づくり県民税を利用)						
		②山城サミットを定期的に実施する(地域と連携)						
			③城跡の歴史資料を集めたガイドブックを作る(地域と連携)					
子どもが遊びに行きたくなる川づくりプロジェクト	○川遊びの指導者がおり水辺教室が各地で活性化している ○川におりやすい場所や河川敷の整備が行われている ○ごみのない安全な川になっている	①川遊び場所のマップづくりに協力する					市民(個人)	
		②生活排水の浄化に取り組む(洗剤、廃油など)						
		③水辺イベントに参加する(ホテルの里づくり、植物の観察会、水辺教室など)						
			①川遊び場所の選定と奨励マニュアル・マップづくりを行う					地域(こみ)
		②水辺の環境整備を行う(草刈り、清掃、片づけなど)						
		③生活排水の浄化に取り組む(洗剤、廃油など)						
			①安全な水質と水量を確保する					行政
		②水辺の環境を整備する(不法投棄防止、草刈り、遊歩道の整備など)						
		③指導者の育成と各小学校に水辺イベントへの参加を働きかける						
もったいないの気持ちでゴミを出さないまちづくりプロジェクト	○ごみ分別が決められたとおりになっている ○再利用を考えて実行している ○環境改善の意識が高まっている	①節電をする(長時間使わないときはプラグを抜く)					市民(個人)	
		②再利用品(不用品)をフリーマーケットに出す						
		③ポイ捨てをしない						
			①生活環境委員が中心となって、町内会でごみ分別の学習会を開催する					地域(こみ)
		②住民全員参加でごみ拾いを年2回開催する						
		③フリーマーケットを開催する						
			①地球温暖化防止について意識向上を図る学習会を開催する					行政
		②廃品回収に対する助成金を増やす						
		③小さい頃から環境教育を実施する						

久井地域

《みはらし環境塾で考えた重点プロジェクト一覧》

: 協議または実践開始年度  


 : 協議または実践期間

プロジェクト名	環境像	平成20 (2008)年度	平成21 (2009)年度	平成22 (2010)年度	平成23 (2011)年度	平成24 (2012)年度	主体	
四季折々の自然を楽しむ 郷づくりプロジェクト	○四季の移ろいに住民が関心を持ち楽しんでいる ○見て食べて楽しめる山野草がいっぱいある	①各家庭で四季折々の花を植える					市民(個人)	
			②山野草が自生する場所を知る					
		①“久井の自然百景”コンテストを開く(写真・絵画など)					地域(個人)	
			②“みどりの講師”発掘とネットワークづくりを行う					
			③四季折々の山野草を食べる会を開く					
			④四季折々の山野草や野鳥などを学ぶ観察会を開く					
			①久井の山野草の現状を調査し、情報を市民に知らせる					行政
				②自然を楽しむための遊歩道の整備を推進する				
			③各取組のPR・支援を行う					
		心安らぐ水辺空間再生プロジェクト	○川や池が汚れておらずホタルをはじめとする様々な生き物が棲んでいる ○人為的なごみや草などが放置されておらず景観が楽しめる	①定期的を実施する川の清掃に参加する				
②川にごみを捨てない								
	③川を汚さないための工夫を実践する							
	①久井の玄関口周辺の雑木・雑草を除去する							地域(個人)
	②川を汚さない方法を考える会を定期的で開催する							
	③久井の水辺マップを作成する(水生生物、ごみなど)							
	④小学校の近くに親水空間やピオトープ <sup>※</sup> をつくる							
	①農業従事者を巻き込んだ環境学習会を開く							行政
	②各取組のPR・支援を行う							
省エネ生活実践プロジェクト	○自然や昔の生活の知恵を取り入れた暮らしができています ○「省エネ」が合い言葉になっている	①みどりのカーテン(ゴーヤ・アサガオなど)やすだれを利用する					市民(個人)	
		②化石燃料 <sup>※</sup> の代わりに、まき・炭を活用する						
		③各家庭でこまめな節電を進める						
			①省エネグッズの作り方教室・学習会を開催する					地域(個人)
			②環境家計簿運動を推進する					
			③地場産物を優先して消費できるしくみをつくる					
			④家庭用・業務用の冷蔵庫の庫内チェックデーを設置する					
			⑤月明かりを楽しむイベントを開催する					
			①各取組のPR・支援を行う					

# 大和地域

## 《みはらし環境塾で考えた重点プロジェクト一覧》

: 協議または実践開始年度  


 : 協議または実践期間

プロジェクト名	環境像	平成20 (2008)年度	平成21 (2009)年度	平成22 (2010)年度	平成23 (2011)年度	平成24 (2012)年度	主体	
自然を活かした里山づくりプロジェクト	○地域ボランティアの協力で里山の整備が できている ○自然を残した場所や ビオトープが各所に 点在し協力して維持 されている	①里山づくりのために、田・池の周辺の山林などを下刈りする					市民(個人)	
		②定期的に行われる道路や河川の草刈りに積極的に参加する						
		③休耕田を利用して、野菜・花・果物などを栽培する						
		①ボランティアを募集して、里山整備を推進する						地域ぐるみ
		②里山・ビオトープの状況を調査し、状況を冊子にまとめる						
		③調査の結果を活かし、ビオトープをつくる						
		①広葉樹の植林活動を支援する						行政
②各取組のPR、支援を行う								
きれいで豊かな川を守るプロジェクト	○ホタルが各所で舞い飛 び川に魚がたくさん 棲んでいる ○川が家庭からの污水 で汚れていない	①廃油や米のとぎ汁などの川の汚れになるものを流さない工夫をする					市民(個人)	
		②地域内で行われる水辺教室に積極的に参加する						
		③川へのごみのポイ捨ては絶対にしない						
		①水辺の自然の状況を調査し、その状況を冊子にまとめる						地域ぐるみ
		②地域ぐるみでホタルの飼育(ノウハウ)を広める						
		③水辺のパトロール隊を設置し、水辺を保全する						
		①合併浄化槽の普及に努める						行政
②ブラックバスなどの外来種*の駆除・PR・実践に努める								
③各取組のPRを行う								
もったいないライフのまちづくりプロジェクト	○使えるものはリサイ クル、リフォームで きている ○3マイ(バッグ、カ ップ、ハシ)運動が 定着している ○まちぐるみで節電が できている	①買い物には買い物袋(マイバッグ)を持参する					市民(個人)	
		②無駄な待機電力を控える						
		③ごみの分別を徹底する						
		④各種会合では、マイカップ・マイ箸を持参する						
		①マイバッグ・マイ箸袋の作成教室を行う					地域ぐるみ	
		②手作りの雨水タンクを普及させる						
		③“達人ネットワーク”をつくり、壊れたものを直す仕組みをつくる						
		④環境家計簿の記帳を推進する						
		⑤遊休品バザーを開催する						
①太陽光発電設備の設置を促進する					行政			
②「もったいない」につながる研修会・学習会を開催する								
③各取組のPRを行う								